

第2章 調査の結果

〔調査の概要〕

【調査方法】

調 査 の 種 類

1. 市民意識調査【業者委託：株式会社西日本リサーチ・センター】 ※詳細は10頁参照

→郵送調査法／18歳以上の市民1,000人／全36問／サンプル417(回収率41.7%)

→期間 平成30年8月16日～9月15日

2. インタビュー調査

(1)生涯学習促進に係る意識調査【調査団：市職員】 ※詳細は52頁参照

→インタビュー／この1年間、学習活動を行っていない18歳以上の市民／全22問／サンプル173

→期間 平成30年8月16日～9月15日 / 場所 大型商業施設、大牟田市役所

(2)若者意識調査【調査団：市職員】 ※詳細は73頁参照

→インタビュー／16歳～34歳の「えるる」利用者／全16問／サンプル113

→期間 平成30年8月16日～9月15日

3. ローリング調査(庁内照会・ヒアリング) ※詳細は93頁参照

「平成23年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究報告書」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された『7つの取組み』の進捗確認等(所管課への照会・ヒアリング 平成30年7月3日～8月14日)

◆7つの取組み 全14事業対象

(1) 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

(市民自らが行う取組み／社会教育機関等が行う取組み／一時保育を行う講座の充実)

(2) 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

(仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み／青年自身が活躍の場をつくり出す取組み／高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み)

(3) ふるさと大牟田を知る取組み

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充

(5) 学習情報センター機能の拡充

(学習相談の窓口としての機能の強化／わかりやすくて確かな情報提供)

(6) 職員研修の充実

(社会教育機関の職員に必要な能力の向上／「聴く」活動)

(7) 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

(地域の絆を育む取組み／災害に備える取組み)

【調査結果】

意識調査（市民意識調査・インタビュー調査）

1. 生涯学習の必要性等 P14 / P55

- 「市民意識調査」において、約9割（88%）の人が生涯学習は必要と回答しています。
- 「生涯学習促進に係る意識調査」では、日頃学習活動をしていない人（できない人）でも7割以上（74%）に学習意欲があることが判明しました。

2. 生涯学習をしない理由（できない理由） P19 / P54

- 「市民意識調査」、「生涯学習促進に係る意識調査」共に、『仕事』、『家事・育児・介護』で時間がとれないが最も高く、次いで『どのような活動があるかわからない』、『生涯学習に関する情報が不足』（「市民意識調査」は前回調査より2倍近く増加）の割合が高いことが判明しました。

3. 生涯学習の情報源 P15

- 「市民意識調査」において、『広報おおむた』が最も高く、年齢が上がるほど割合が高く、逆に『インターネット』『SNS』は年齢が下がるほど高い傾向があります。
なお、各年代において、過半数が『広報おおむた』を情報源としていますが、18～29歳については、『広報おおむた』16%、『SNS』28%、『インターネット』24%となっており、他の年代とは情報源が全く異なることが判明しました。

4. 学んだ成果の活用等 P27～29

- 「市民意識調査」において、『活かしていない』と回答した人の割合は、前回調査よりも若干増加しており（14%⇒17%）、全国的に見て高い状況となっています（平成30年世論調査5%）。
- 同調査で『身につけた知識・技能を地域や人々のために活かしたい』と思っている人は、全体の約6割におよんでいます。
なお、学んだ成果を活かしていない理由は、『活かし方がわからない』が『学業・仕事』で忙しいに次いで割合が高くなっています。

5. ボランティア活動について P31 / P59 / P60 / P33

- 「市民意識調査」において、『この1年間ボランティア活動を行っていない人』の割合は、前回調査より増加して約7割（平成23年57%⇒平成30年67%）におよび、また、“年平均の回数”は前回と比べ半減しています（平成23年38日／年⇒平成30年18日／年）
- 「生涯学習促進に係る意識調査」では、約8割（83%）がボランティア活動を行っていないと回答しています。しかし、全体の約6割（57%）の人には“ボランティア活動へ参加する意思”があり、また、70歳以上を除く全ての年代において『参加したいと思うができない人』が4割以上いることが判明しました。
なお、同調査で、“ボランティア活動を行っていない理由”は、『仕事』（56%）、『家事・育児・介護』（24%）で忙しいが上位を占めています。
- 「市民意識調査」において、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは、前回調査と同様、『ボランティア活動に関する情報提供』の割合が最も高くなっています。

6. 地域活動について P37 / P39 / P62～63 / P40 / P34～35

- 「市民意識調査」において、『この1年間地域活動を行っていない人』の割合は、前回調査より増加して過半数に達し（平成23年45%→平成30年51%）、また、“年平均の回数”は前回調査と比べ半減しています（平成23年26日／年⇒平成30年12日／年）。

なお、同調査で、“地域活動に参加していない理由”は、『忙しくて時間がとれない（学業、仕事、家事など）』（48%）が最も高く、次いで、『どのような活動が行われているか情報が無い』（24%）、『誘いが無いなど、参加するきっかけが無い』（17%）となっています。

- 「生涯学習促進に係る意識調査」において、約7割（68%）が地域活動を行っていないと回答しています。しかし、全体の約6割（58%）の人には“地域活動へ参加する意思”があることが判明しました。

なお、同調査で、“地域活動に参加していない理由”は、「市民意識調査」と同様に『忙しい』（60%）が最も高くなっています。

- 「市民意識調査」において、地域活動へ参加しやすくするために必要なことは、『誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする』が、『活動のPR』『活動・行事を魅力的なものにする』等、他の選択肢を大きく上回り、最も高くなっています。
- 「市民意識調査」において、8割以上の人々が『人々や地域のつながり』は必要と回答しており、また、“つながり”が必要と思う理由については、性別・年代を問わず『災害時の共助』が最も高くなっています。

7. 学校を支援する取組みへの参加の意向 P43 / P65

- 「市民意識調査」では、約5割（48%）、また、「生涯学習促進に係る意識調査」においては、約7割（71%）に“学校を支援する取組みへ参加する意思”があることが判明しました。両調査とも、地域活動をあまり行っていない若い年代（18歳～39歳）の参加意識は、他の年代と比べて高いことが判明しました。

8. 若者のボランティア活動・地域活動に対する関心度 P89

- 「若者意識調査」において、“自ら企画して実践する”ボランティア活動・地域活動に対しては、関心が高いことが判明しました（全体の7割が『関心がある』と回答）。

9. 地区公民館を利用しない理由 P68

- 「生涯学習促進に係る意識調査」において、『仕事』で忙しいが最も高く、次いで『何があるのかわからない』となっています。

10. 若者が生涯学習を行わない理由 P83

- 「若者意識調査」において、『学業で時間がとれない』が最も高く、次いで『どのような活動があるのかわからない』『身近に利用できる施設が少ない』『生涯学習に関する情報が不足している』『特に必要がない』の4項目が同率となっています。

11. 行政に対する要望 P58 / P24

- 「生涯学習促進に係る意識調査」において、行政に対する要望として最も高いことは、『講座・催し物に関する詳しい情報提供』であることが判明しました（次点より2倍以上高くなっています）。

なお、「市民意識調査」においては、『専門的な職員や指導者の配置』が最も高く、『詳細な学習情報の提供』（前回調査では最多）については、20項目中4番目となっています。

ローリング調査（庁内照会・ヒアリング）

「平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究報告書」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された『7 つの取組み』（全 14 事業）の進捗状況等

1. 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

（1）市民自らが行う取組み（市民自ら学びたいことを学べる場を創出する仕組みづくり） P94

→平成 24 年度から平成 25 年度にかけ「企画者養成講座」を延べ 34 回実施し、平成 26 年度に「市民カレッジ運営委員会」が発足（市民活動団体へ登録）。

（2）社会教育機関等が行う取組み（サークル等が講師を務める講座の仕組みを応用した事業） P95

→平成 24 年度から、「マナビ塾」（高齢者が一般成人に教える講座）がスタートし、平成 29 年度までの 6 年間で 36 講座を実施（29 サークルが発足）。

（3）一時保育を行う講座の充実（子育て中の親が学習活動を行えるよう一時保育の環境を整備） P97

→平成 24 年度から平成 25 年度にかけて「一時保育に関するマニュアル」を作成。
（家庭教育の支援に関する講座以外で、一時保育を行った実績なし）

2. 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

（1）仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み（「出前講座企業編（仮称）」の検討） P98

→平成 29 年度から市内の企業等の参画を得て企業出前講座「がんばる地場企業」を実施。

（2）青年自身が活躍の場をつくり出す取組み P100

→参加者数を確保することが困難な状況が続き、事業の一部を休止。

（3）高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み（「ボランティア塾」の拡充） P102

→平成 25 年度から平成 29 年度にかけて「ボランティア塾」を延べ 28 講座実施し、これまでに 17 のボランティアグループが発足（うち 11 グループが「生涯学習ボランティア登録派遣事業（愛称：まなばんかん）」に登録。

→事業の手法及び内容は、前回調査時と変わっておらず、また、平成 28 年度以降、講座の実施回数は半減（7 講座⇒3～4 講座）。

3. ふるさと大牟田を知る取組み P104

→7 地区公民館において「ふるさと大牟田講座」（平成 25～平成 27 年度）や「地域魅力アップ支援事業」などを実施。

→平成 29 年度は“郷土学習”に係る取組みを実施した地区公民館は 1 館のみ。

4. 市民に身近な場所で行う事業の拡充（地区公民館がない校区へ出向く事業の拡充） P107

→平成 24 年度から平成 29 年度にかけて各地区公民館が離れた担当校区へ出向いて実施した事業数は、年間平均 10 事業（1 館あたり 1.4 事業）のみ。

→出向いて実施する校区に偏りがある（未実施の校区あり）。

5. 学習情報センター機能の拡充

(1) 学習相談の窓口としての機能の強化(学習情報をデータベース化して共有する) P110

- 行政及び民間などで行われる各種講座、イベント等に関する情報を収集して、定期的(奇数月)に学習情報誌「まなびのカatalog」を発行。
- 社会教育機関等が保有する学習情報のデータベース化には至っていない状況。

(2) わかりやすく的確な情報提供(紙面による情報提供の拡充とインターネットの活用) P111

- 学習情報誌「まなびのカatalog」をはじめ、地区公民館、大牟田文化会館、図書館などにおいて定期的に機関誌を発行(平成23年度と比べて発行回数・部数は増加)。
- 必要に応じて、「広報おおむた」、「市のホームページ」、「愛情ねっと」(地域SNS)、「FMたんと」(コミュニティFM)などを活用。

6. 職員研修の充実

(1) 社会教育機関の職員に必要な能力(コミュニケーション、ファシリテーション)の向上 P113

- 「コミュニケーション」及び「ファシリテーション」のスキル向上を図る研修は、平成24年度に1回実施したのみ(外部教育機関で行われる研修への参加も少数)。

(2) 「聴く」活動(“聴く”活動を職員研修として継続的に実施) P115

- 「聴く力」のスキル向上を図る研修は、平成24年度に1回実施したのみ(外部教育機関で行われる研修への参加も少数)。

7. 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

(1) 地域の絆を育む取組み P116

- 平成24年度から平成29年度にかけて、地域課題の解決、地域の歴史、人物などをテーマにした取組みを延べ104事業実施(文部科学省より表彰を受けた取組みあり)。

(2) 災害に備える取組み(防災学習の実施) P119

- 平成24年度以降、防災に関する取組みを17校区(延べ34事業)で実施。
(地区公民館の事業がきっかけで防災訓練が始まった校区もあり)

ローリング調査の結果を踏まえ、「人づくり」「地域づくり」に向けて、
今後、特に充実することが必要な取組み

- ☐ 青年自身が活躍の場をつくり出す取組み……次代を担う若者を対象とした事業の強化
- ☐ ふるさと大牟田を知る取組み……郷土に対する“愛着”や“誇り”を育む事業
- ☐ 市民に身近な場所で行う事業の拡充……地区公民館における各担当校区での取組み
- ☐ 学習情報センター機能の拡充……学習情報(講座・イベント等)の提供
- ☐ 職員研修の充実……社会教育関係職員のスキル向上を図る研修
- ☐ 地域の絆を育む取組み……コミュニティ再生に資する取組み

I 市民意識調査

1. 調査の概要

- 調査の目的 市民の社会教育・生涯学習、住民自治及びまちづくりに対する意識や、学習活動・地域活動の実態、行政に対する要望などを把握し、今後の社会教育・生涯学習行政の施策・事業の在り方を研究するための基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査対象 市内在住の満18歳以上の男女等（平成30年7月1日現在） 1,000人
※住民基本台帳より無作為抽出
- 調査方法 郵送法（封書による郵送・回収）
- 調査期間 平成30年8月16日～9月15日（調査基準日は8月1日）
※平成30年9月18日までに大牟田市に到達した調査票
※平成30年8月31日に調査に対する礼状兼協力依頼状を送付
- 回収数（率） 417件（41.7%）
- 調査委託機関 株式会社 西日本リサーチ・センター

< 調査項目 >

- ◇回答者属性（性別、年齢等）……………5問
- （1）生涯学習について……………12問
 - 生涯学習のイメージ、情報源、内容、場所・形態
 - 生涯学習の目的、生涯学習をしない理由（できない理由）
 - 生涯学習に都合の良い日時、学習ニーズ
 - 行政に対する要望 など
- （2）学んだ成果について……………5問
 - 生涯学習を通じた自身の変容
 - 学んだ成果の活用状況
 - 学んだ成果を活かしていない理由（活かせない理由） など
- （3）ボランティア活動・地域活動について……………13問
 - ボランティア活動・地域活動の頻度、内容
 - ご近所づきあいの有無、地域の“つながり”の必要性
 - 地域活動に参加していない理由（できない理由）
 - 地域の課題、地域と行政の協働が必要なこと
 - 学校を支援する取組みへの参加意向 など
- （4）自由記述（生涯学習や地域づくりに関するご意見・ご要望）……1問

（計36問）

< 調査結果利用上の注意 >

- 文章や表、グラフの数値は小数点以下2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならないことがある。
- 2つ以上の回答を求めた（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。

市民意識調査

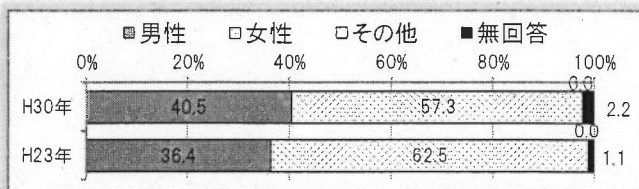
2. 調査結果

回答者属性

◆性別

問1 あなたの性別について、あてはまる番号に○印をつけてください。

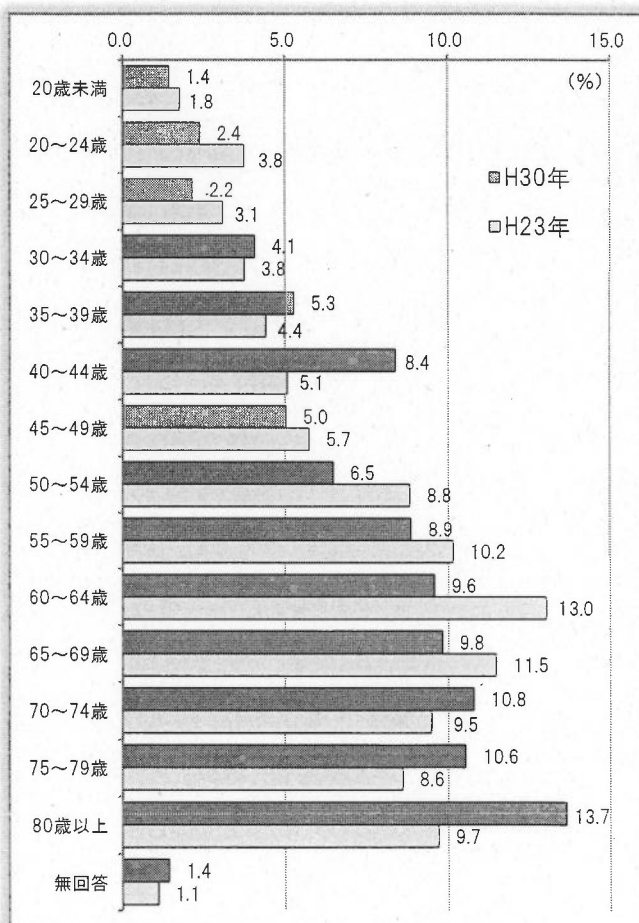
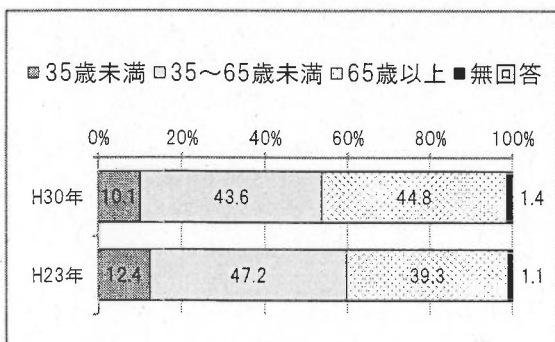
		今回(H30年)		前回(H23年)	
1	男 性	169人	40.5%	165人	36.4%
2	女 性	239人	57.3%	283人	62.5%
3	その他	0人	0.0%	0人	0.0%
	無回答	9人	2.2%	5人	1.1%
	合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆年齢

問2 あなたの年齢(平成30年8月1日現在)について、あてはまる番号に○印をつけてください。

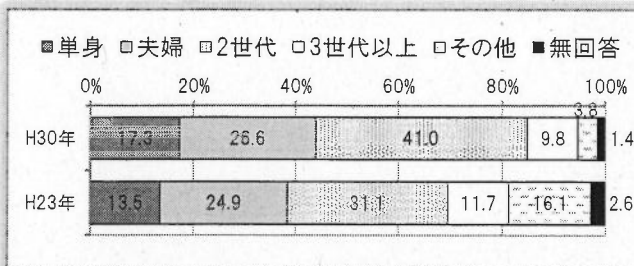
		今回(H30年)		前回(H23年)	
1	20歳未満	6人	1.4%	8人	1.8%
2	20～24歳	10人	2.4%	17人	3.8%
3	25～29歳	9人	2.2%	14人	3.1%
4	30～34歳	17人	4.1%	17人	3.8%
5	35～39歳	22人	5.3%	20人	4.4%
6	40～44歳	35人	8.4%	23人	5.1%
7	45～49歳	21人	5.0%	26人	5.7%
8	50～54歳	27人	6.5%	40人	8.8%
9	55～59歳	37人	8.9%	46人	10.2%
10	60～64歳	40人	9.6%	59人	13.0%
11	65～69歳	41人	9.8%	52人	11.5%
12	70～74歳	45人	10.8%	43人	9.5%
13	75～79歳	44人	10.6%	39人	8.6%
14	80歳以上	57人	13.7%	44人	9.7%
	無回答	6人	1.4%	5人	1.1%
	合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆家族構成

問3 あなたの家族構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。

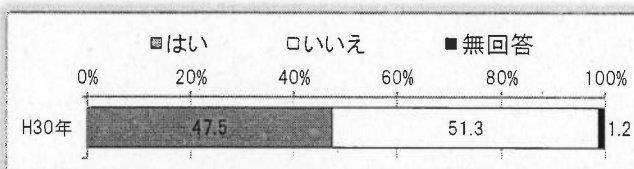
	今回(H30年)		前回(H23年)	
1 単身	72人	17.3%	61人	13.5%
2 夫婦	111人	26.6%	113人	24.9%
3 2世代	171人	41.0%	141人	31.1%
4 3世代以上	41人	9.8%	53人	11.7%
5 その他	16人	3.8%	73人	16.1%
無回答	6人	1.4%	12人	2.6%
合計	417人	100.0%	453人	100.0%



◆仕事・休日

問4-1 あなたは、現在、お仕事をしていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	今回(H30年)	
1 はい	198人	47.5%
2 いいえ	214人	51.3%
無回答	5人	1.2%
合計	417人	100.0%

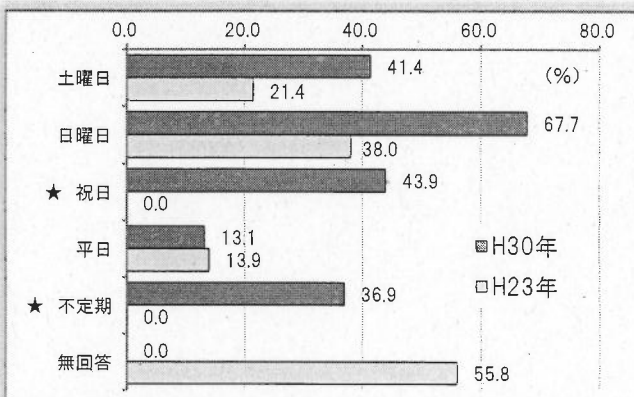


《問4で、「はい」とお答えの方におたずねします》

問4-2 あなたのお休みはいつですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

	今回(H30年)		前回(H23年)	
1 土曜日	82人	41.4%	97人	21.4%
2 日曜日	134人	67.7%	172人	38.0%
3 祝日 ★	87人	43.9%	—	—
4 平日	26人	13.1%	63人	13.9%
5 不定期 ★	73人	36.9%	—	—
無回答	0人	0.0%	253人	55.8%
合計	198人		453人	

※「★印」の選択肢は、H23年調査時になかったもの



(1)生涯学習について

◆生涯学習のイメージ

問5 あなたは、「生涯学習」について、どのようなお考えやイメージをお持ちですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

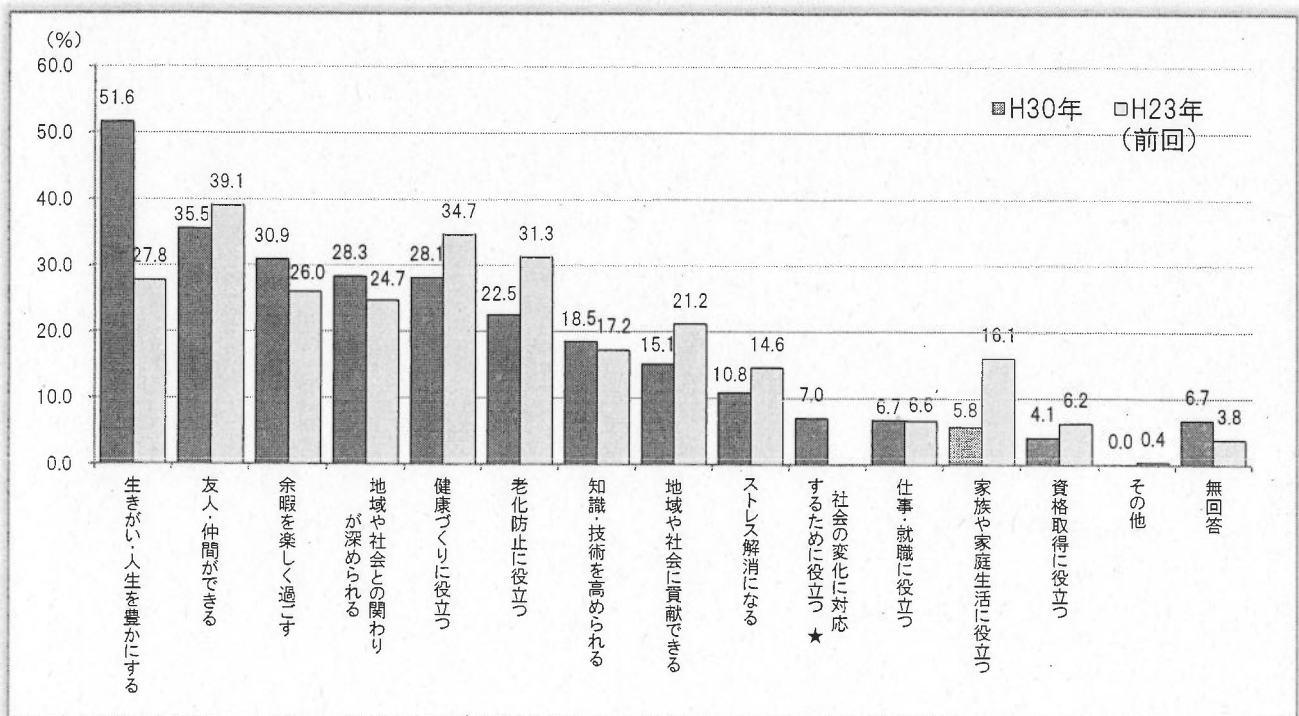
生涯学習のイメージは、「生きがい・人生を豊かにする」(51.6%)が最も高く(前回の選択肢に「生きがい」を追加)、次いで「友人・仲間ができる」(35.5%)、「余暇を楽しく過ごす」(30.9%)、「地域や社会との関わりが深められる」(28.3%)、「健康づくりに役立つ」(28.1%)となっています。

前回と比較すると、「健康づくり」及び「老化防止」は、それぞれ順位が下がっています(比較的年齢が上がるほど割合が高い)。また、「仕事・就職に役立つ」と「資格取得に役立つ」については、前回と変わらず10%未満となっています(年齢が若いほど割合が高い傾向)。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 余暇を楽しく過ごす	30.9	30.2	31.4	33.3	20.0	28.2	28.6	28.1	35.8	37.1	28.1	16.7
2 生きがい・人生を豊かにする	51.6	44.4	56.9	44.4	48.0	53.8	50.0	57.8	54.3	44.9	52.6	50.0
3 ストレス解消になる	10.8	5.3	14.2	22.2	12.0	10.3	1.8	20.3	12.3	6.7	12.3	16.7
4 友人・仲間ができる	35.5	32.0	37.7	44.4	48.0	35.9	32.1	29.7	35.8	39.3	33.3	33.3
5 健康づくりに役立つ	28.1	28.4	27.6	33.3	8.0	17.9	14.3	31.3	33.3	36.0	33.3	33.3
6 老化防止に役立つ	22.5	23.1	20.9	55.6	4.0	15.4	7.1	15.6	23.5	34.8	36.8	33.3
7 家族や家庭生活に役立つ	5.8	7.7	3.8	22.2	4.0	7.7	8.9	4.7	6.2	2.2	7.0	16.7
8 知識・技術を高められる	18.5	18.3	18.4	22.2	28.0	28.2	25.0	17.2	14.8	14.6	14.0	16.7
9 資格取得に役立つ	4.1	4.7	2.9	22.2	8.0	7.7	8.9	4.7	1.2	1.1	3.5	0.0
10 仕事・就職に役立つ	6.7	7.1	5.9	22.2	24.0	23.1	8.9	7.8	1.2	1.1	1.8	0.0
11 地域や社会との関わりが深められる	28.3	23.7	31.4	33.3	24.0	30.8	46.4	31.3	23.5	22.5	22.8	33.3
12 地域や社会に貢献できる	15.1	18.3	12.6	22.2	20.0	15.4	23.2	20.3	22.2	6.7	1.8	16.7
13 社会の変化に対応するために役立つ ★	7.0	10.7	4.2	11.1	20.0	7.7	3.6	4.7	7.4	11.2	0.0	0.0
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	6.7	8.3	5.9	0.0	4.0	5.1	5.4	4.7	6.2	3.4	19.3	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆生涯学習の必要性

問6 あなたは、生涯学習は必要だと思いますか。

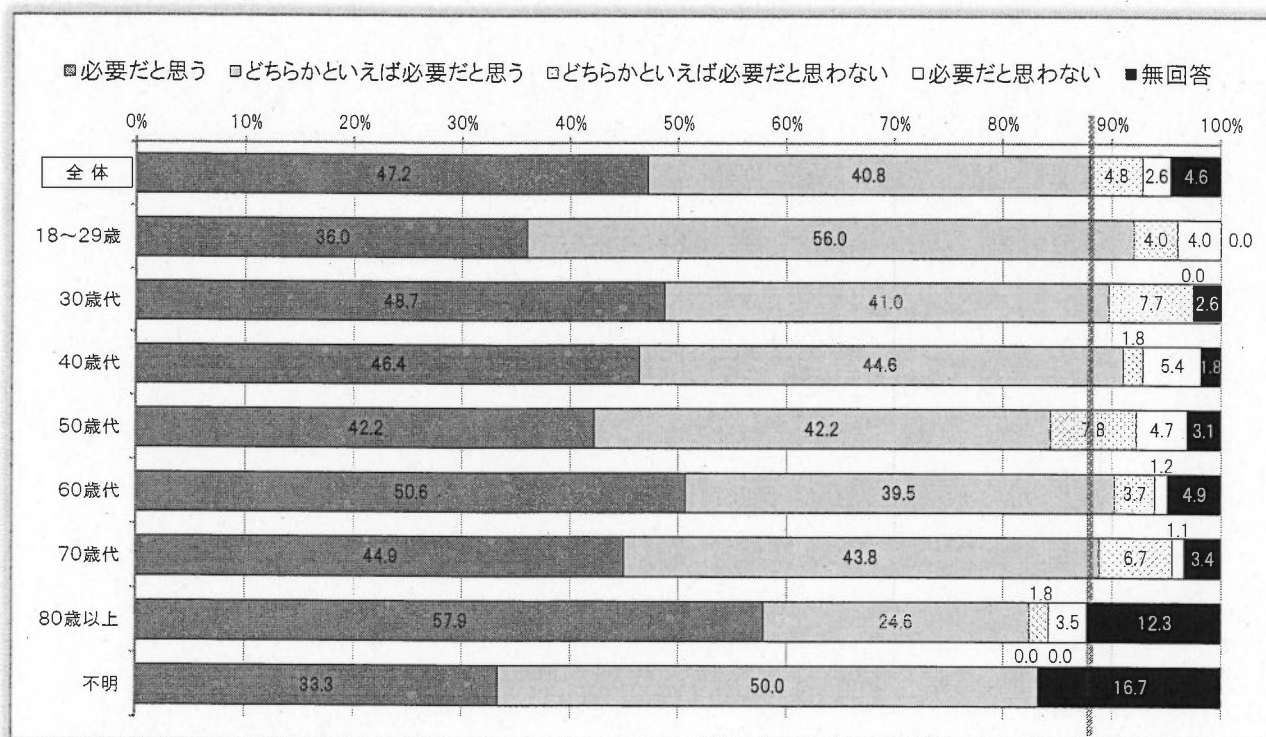
生涯学習は、「必要と思う」(47.2%)と「どちらかといえば必要だと思う」(40.8%)と回答した割合が、全体の約9割(88.0%)におよんでいます。また、「必要だと思わない」(2.6%)と「どちらかといえば必要だと思わない」(4.8%)と回答した割合は7.4%となっています。

年代別に見ると、『必要』の割合は、30歳未満が92.0%で最も高く、80歳以上の82.5%が最も低くなっており、比較的若い世代のほうが数値が高くなっています。逆に、『不必要』の割合は、50歳代が12.5%で最も高く、60歳代の4.9%が最も低くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サンプル数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 必要だと思う	47.2	46.2	48.5	33.3	36.0	48.7	46.4	42.2	50.6	44.9	57.9	33.3
2 どちらかといえば必要だと思う	40.8	39.6	41.8	33.3	56.0	41.0	44.6	42.2	39.5	43.8	24.6	50.0
3 どちらかといえば必要だと思わない	4.8	6.5	3.8	0.0	4.0	7.7	1.8	7.8	3.7	6.7	1.8	0.0
4 必要だと思わない	2.6	3.0	2.1	11.1	4.0	0.0	5.4	4.7	1.2	1.1	3.5	0.0
無回答	4.6	4.7	3.8	22.2	0.0	2.6	1.8	3.1	4.9	3.4	12.3	16.7

※H23年調査時に当該設問なし



◆生涯学習の情報源

問7 あなたは、生涯学習に関する情報を何から得ていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習の情報源は、「広報おおむた」(64.7%)が最も高く、次いで「TV・新聞・情報誌」(26.9%)、「町内の回覧板」(22.1%)、「家族や友人・知人」(21.6%)、「地区公民館だより」(17.0%)となっています。

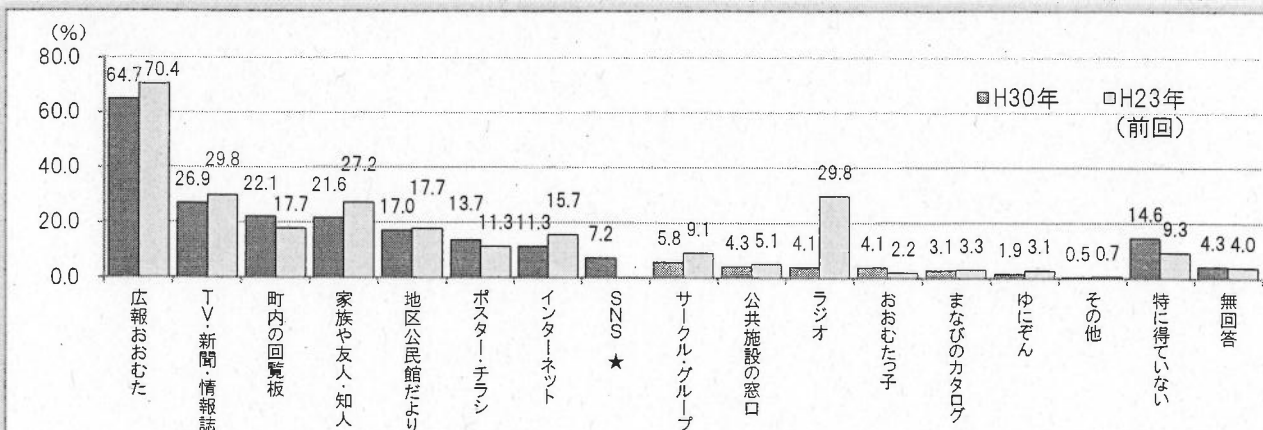
上位3項目については、比較的年齢が上がるほど割合が高く、逆に、「インターネット」と「SNS」は年齢が下がるほど割合が高くなっています。また、30歳未満の年代については、「特に得ていない」(40.0%)、「SNS」(28.0%)、「インターネット」(24.0%)の順に割合が高く、意識や情報源が他の年代とは全く異なっています。

なお、公共機関が発行する機関誌の中では、「地区公民館だより」が最も高く、特に70歳代、80歳代については、「町内の回覧板」並みの割合となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 市の広報紙「広報おおむた」	64.7	55.0	71.1	77.8	16.0	56.4	62.5	64.1	74.1	74.2	63.2	100.0
2 インターネット(市ホームページ等)	11.3	11.8	10.9	11.1	24.0	23.1	19.6	15.6	7.4	4.5	0.0	16.7
3 SNS(愛情ねっと等) ★	7.2	5.3	8.8	0.0	28.0	20.5	7.1	10.9	0.0	3.4	0.0	16.7
4 ラジオ(FMたんと等)	4.1	4.1	3.8	11.1	4.0	2.6	0.0	4.7	4.9	4.5	5.3	16.7
5 TV・新聞・情報誌	26.9	29.0	25.5	22.2	12.0	25.6	21.4	23.4	29.6	32.6	29.8	33.3
6 家族や友人・知人	21.6	15.4	26.4	11.1	20.0	25.6	14.3	25.0	22.2	22.5	22.8	0.0
7 町内の回覧板	22.1	24.9	20.1	22.2	4.0	10.3	21.4	14.1	21.0	32.6	31.6	33.3
8 地区公民館だより	17.0	16.6	17.6	11.1	0.0	10.3	3.6	7.8	18.5	31.5	28.1	16.7
9 学習情報誌「まなびのカタログ」	3.1	3.0	3.3	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	6.2	5.6	0.0	0.0
10 文化会館情報誌「ゆにぞん」	1.9	1.8	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.5	4.5	0.0	0.0
11 子育て情報誌「おおむたっ子」	4.1	1.8	5.9	0.0	8.0	7.7	8.9	4.7	2.5	2.2	0.0	0.0
12 公共施設の窓口	4.3	1.8	5.9	11.1	4.0	0.0	3.6	4.7	6.2	3.4	5.3	16.7
13 ポスター・チラシ	13.7	10.1	16.7	0.0	16.0	20.5	16.1	12.5	14.8	10.1	12.3	0.0
14 サークル・グループ	5.8	2.4	8.4	0.0	4.0	2.6	5.4	3.1	4.9	7.9	10.5	0.0
15 その他	0.5	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0
16 特に得ていない	14.6	19.5	11.3	11.1	40.0	25.6	21.4	18.8	6.2	9.0	7.0	0.0
無回答	4.3	4.1	4.6	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	3.7	5.6	12.3	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの。前回の調査では「TV・新聞・ラジオ、情報誌」が同じ選択肢。



年 代 別

BEST3

- 18～29歳……①特に得ていない(40.0%) ②SNS(28.0%) ③インターネット(24.0%)
 30歳代……①広報誌(56.4%) ②TV・新聞・情報誌／家族や友人・知人／特に得ていない(25.6%)
 40歳代……①広報誌(62.5%) ②TV・新聞・情報誌／町内の回覧板／特に得ていない(21.4%)
 50歳代……①広報誌(64.1%) ②家族や友人・知人(25.0%) ③TV・新聞・情報誌(23.4%)
 60歳代……①広報誌(74.1%) ②TV・新聞・情報誌(29.6%) ③家族や友人・知人(22.2%)
 70歳代……①広報誌(74.2%) ②TV・新聞・情報誌／町内の回覧板(32.6%)
 80歳以上……①広報誌(63.2%) ②町内の回覧板(31.6%) ③TV・新聞・情報誌(29.8%)

◆生涯学習の実施状況

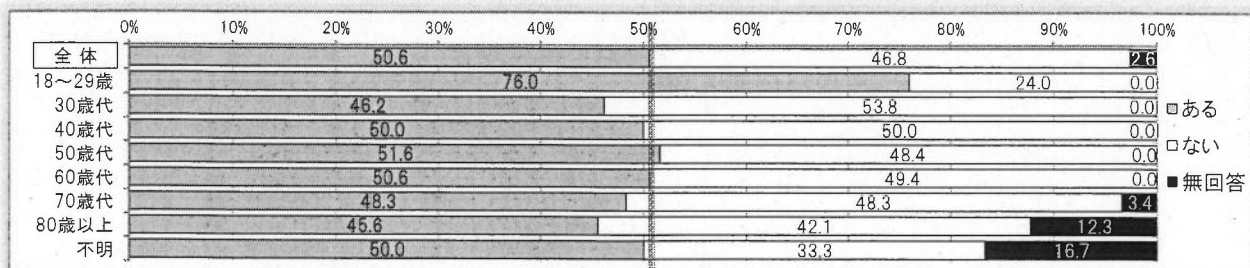
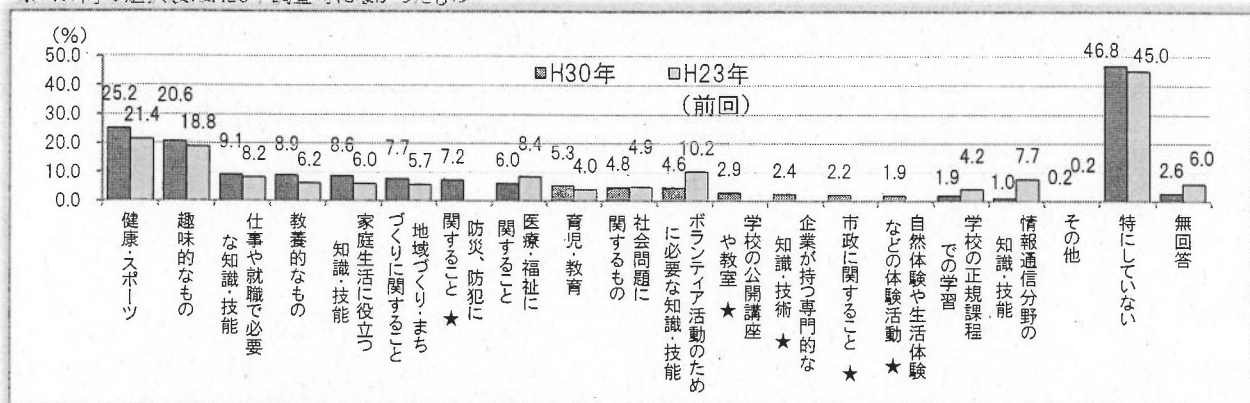
問8 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

この1年くらいの間に行った生涯学習は、前回と同様、「特にしていない」(46.8%)と回答した割合が最も高くなっています。また、生涯学習の内容についても、「健康・スポーツ」(25.2%)と「趣味的なもの」(20.6%)が、それぞれ約2割あり、ほかの項目と比べて高くなっています(健康・スポーツについては、どの年代でも一定の割合あり)。なお、「ボランティア」と「医療・福祉」は、前回と比較して割合が低下し、大きく順位が下がっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	20.6	14.8	24.3	33.3	44.0	17.9	7.1	18.8	24.7	21.3	19.3	33.3
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	8.9	11.8	7.1	0.0	12.0	10.3	1.8	7.8	13.6	7.9	10.5	0.0
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	4.8	7.1	3.3	0.0	8.0	7.7	1.8	7.8	3.7	2.2	7.0	0.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	25.2	21.3	28.0	22.2	24.0	23.1	21.4	26.6	19.8	33.7	22.8	33.3
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	8.6	4.1	12.1	0.0	4.0	2.6	3.6	10.9	11.1	9.0	14.0	0.0
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	5.3	1.8	7.9	0.0	16.0	7.7	12.5	6.3	2.5	1.1	1.8	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に關係のある知識の習得や資格の取得など)	9.1	8.9	9.6	0.0	44.0	15.4	16.1	12.5	3.7	0.0	1.8	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	1.0	1.2	0.8	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	4.6	4.1	5.0	0.0	12.0	5.1	3.6	4.7	4.9	5.6	0.0	0.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動 ★	1.9	2.4	1.7	0.0	4.0	2.6	0.0	3.1	1.2	3.4	0.0	0.0
11 防災、防犯に関すること ★	7.2	8.9	6.3	0.0	4.0	5.1	7.1	9.4	4.9	6.7	12.3	0.0
12 医療・福祉に関すること	6.0	8.3	4.6	0.0	8.0	7.7	3.6	6.3	4.9	5.6	8.8	0.0
13 地域づくり・まちづくりに関すること	7.7	8.9	7.1	0.0	0.0	2.6	10.7	10.9	7.4	9.0	7.0	0.0
14 市政に関すること ★	2.2	3.0	1.7	0.0	0.0	0.0	3.6	3.1	1.2	3.4	1.8	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術 ★	2.4	4.7	0.8	0.0	12.0	2.6	1.8	4.7	1.2	1.1	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	1.9	1.8	1.7	11.1	24.0	0.0	0.0	1.6	1.2	0.0	0.0	0.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 ★	2.9	1.8	3.3	11.1	16.0	5.1	1.8	0.0	2.5	3.4	0.0	0.0
18 その他	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
19 特にしていない	46.8	55.0	41.0	44.4	24.0	53.8	50.0	48.4	49.4	48.3	42.1	33.3
無回答	2.6	0.6	3.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	12.3	16.7

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆生涯学習の目的・理由

《問8で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

問9 あなたは何のために生涯学習をしていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

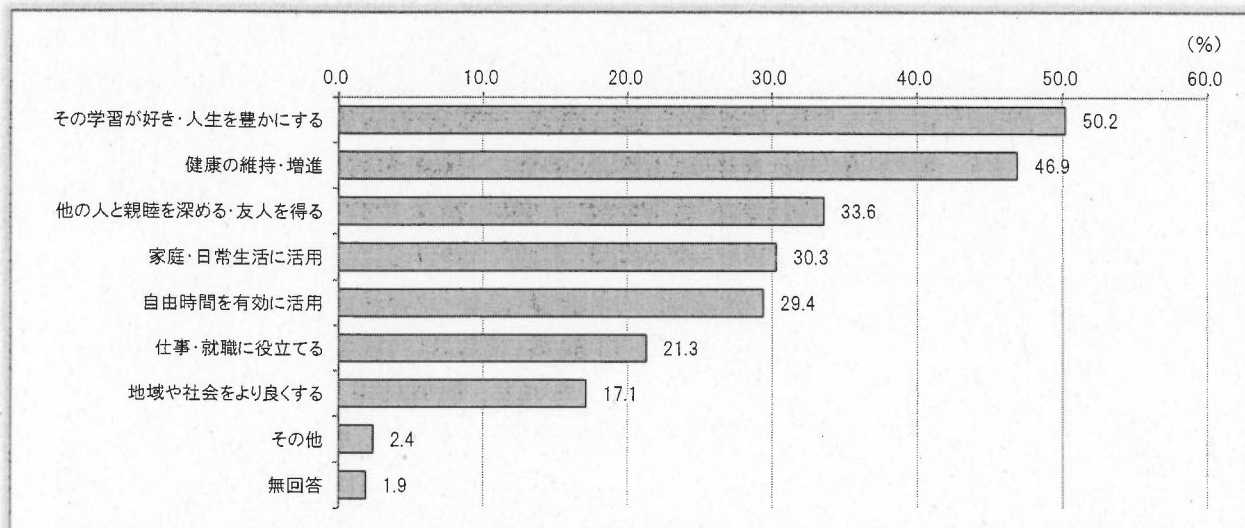
生涯学習を行う目的は、「その学習が好きであつたり、人生を豊かにするため」(50.2%)が最も高く、次いで、「健康の維持・増進のため」(46.9%)、「親睦や友人を得る」(33.6%)、「家庭・日常生活に活用」(30.3%)、「自由時間を有効に活用」(29.4%)となっています。

年代別で見ると、30歳未満及び40歳代は「仕事・就職」、30歳代、50歳代及び60歳代は「その学習が好き、人生を豊かに」、70歳以上は「健康」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	211人	75人	132人	4人	19人	18人	28人	33人	41人	43人	26人	3人
1 その学習が好きであつたり、人生を豊かにしたりするため	50.2	41.3	56.1	25.0	57.9	61.1	35.7	69.7	48.8	48.8	34.6	33.3
2 家庭・日常生活に活用するため	30.3	36.0	27.3	25.0	21.1	27.8	17.9	36.4	36.6	30.2	38.5	0.0
3 自由時間を有効に活用するため	29.4	30.7	28.8	25.0	26.3	33.3	7.1	21.2	39.0	44.2	23.1	33.3
4 健康の維持・増進のため	46.9	44.0	48.5	50.0	15.8	33.3	35.7	39.4	36.6	81.4	57.7	66.7
5 他の人と親睦を深めたり、友人を得たりするため	33.6	25.3	37.1	75.0	15.8	33.3	21.4	27.3	31.7	44.2	50.0	66.7
6 仕事・就職に役立てるため	21.3	22.7	20.5	25.0	63.2	38.9	46.4	30.3	7.3	0.0	0.0	0.0
7 地域や社会をより良くするため	17.1	22.7	13.6	25.0	5.3	5.6	28.6	24.2	22.0	14.0	11.5	0.0
8 その他	2.4	4.0	1.5	0.0	10.5	5.6	3.6	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1.9	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	2.4	2.3	3.8	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆生涯学習の場所・形態

《問8で「1～18」に○印をつけられた方におたずねします》

問10 あなたは、どのような場所や形態で生涯学習をしたことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

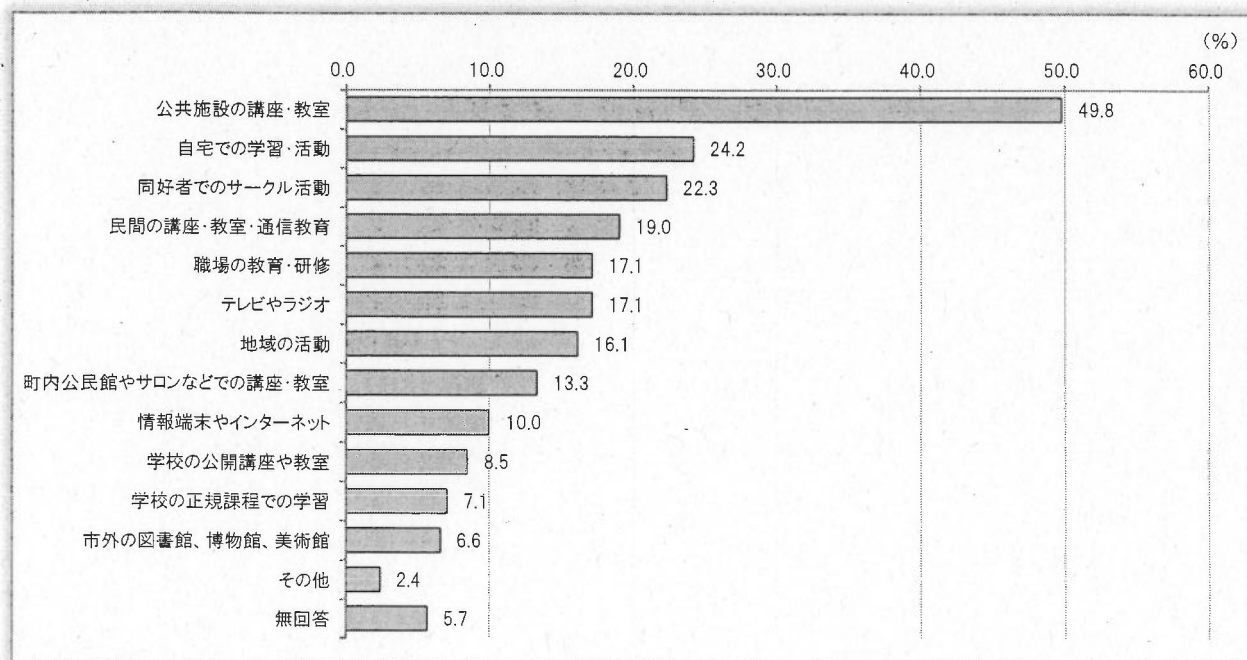
生涯学習の場所・形態は、「公共施設の講座」(49.8%)が最も高く、次いで、「自宅での学習・活動」(24.2%)、「同好者でのサークル活動」(22.3%)、「民間の講座・通信教育」(19.0%)、「職場の研修」(17.1%)となっています。

性別で見ると、「テレビやラジオ」「情報端末やインターネット」「自宅での学習・活動」は男性の割合が高く、逆に、「講座」「同好者でのサークル活動」は女性の割合が高くなっています。

年代別で見ると、30歳未満は「学校」「職場」、30歳代～70歳代は「公共施設の講座」(40歳代は「地域の活動」が同率)、80歳以上は「テレビやラジオ」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	不 明
サ ン プ ル 数	211人	75人	132人	4人	19人	18人	28人	33人	41人	43人	26人	3人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	49.8	38.7	55.3	75.0	31.6	50.0	35.7	39.4	58.5	72.1	34.6	100.0
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	19.0	14.7	22.0	0.0	15.8	22.2	25.0	30.3	19.5	14.0	7.7	0.0
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	7.1	5.3	8.3	0.0	42.1	5.6	3.6	3.0	9.8	0.0	0.0	0.0
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	8.5	6.7	9.8	0.0	26.3	5.6	7.1	12.1	4.9	7.0	3.8	0.0
5 職場の教育・研修	17.1	22.7	14.4	0.0	42.1	22.2	32.1	30.3	9.8	2.3	0.0	0.0
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	16.1	20.0	13.6	25.0	5.3	5.6	35.7	24.2	9.8	18.6	3.8	33.3
7 町内公民館やサロンなどでの講座・教室	13.3	9.3	14.4	50.0	5.3	11.1	3.6	6.1	7.3	27.9	19.2	66.7
8 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	22.3	12.0	28.8	0.0	21.1	11.1	10.7	15.2	34.1	25.6	30.8	0.0
9 市外の図書館、博物館、美術館	6.6	10.7	4.5	0.0	5.3	11.1	3.6	6.1	9.8	9.3	0.0	0.0
10 テレビやラジオ	17.1	28.0	11.4	0.0	0.0	5.6	3.6	21.2	22.0	14.0	46.2	0.0
11 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	10.0	14.7	7.6	0.0	21.1	16.7	10.7	9.1	12.2	7.0	0.0	0.0
12 自宅での学習・活動(書籍など)	24.2	34.7	18.9	0.0	26.3	38.9	21.4	36.4	17.1	11.6	34.6	0.0
13 その他	2.4	2.7	2.3	0.0	0.0	5.6	3.6	3.0	2.4	2.3	0.0	0.0
無回答	5.7	8.0	3.8	25.0	0.0	0.0	0.0	3.0	9.8	9.3	11.5	0.0



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆生涯学習をしない理由(できない理由)

《問8で生涯学習を「特にしていない」とお答えの人におたずねします》

問11 あなたが生涯学習をしない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習をしない理由(できない理由)は、「仕事」(38.5%)が最も高く、次いで、「家事・育児・介護等」(20.5%)、「どのような活動があるかわからない」(18.5%)、「生涯学習に関する情報不足」(17.9%)となっています。

性別で見ると、男性は「仕事」、女性は「仕事」に加え「家事・育児・介護等」(同率)が最も高く、また、男性が「生涯学習に関する情報が不足している」と感じている割合は女性の約2倍におよんでいます。

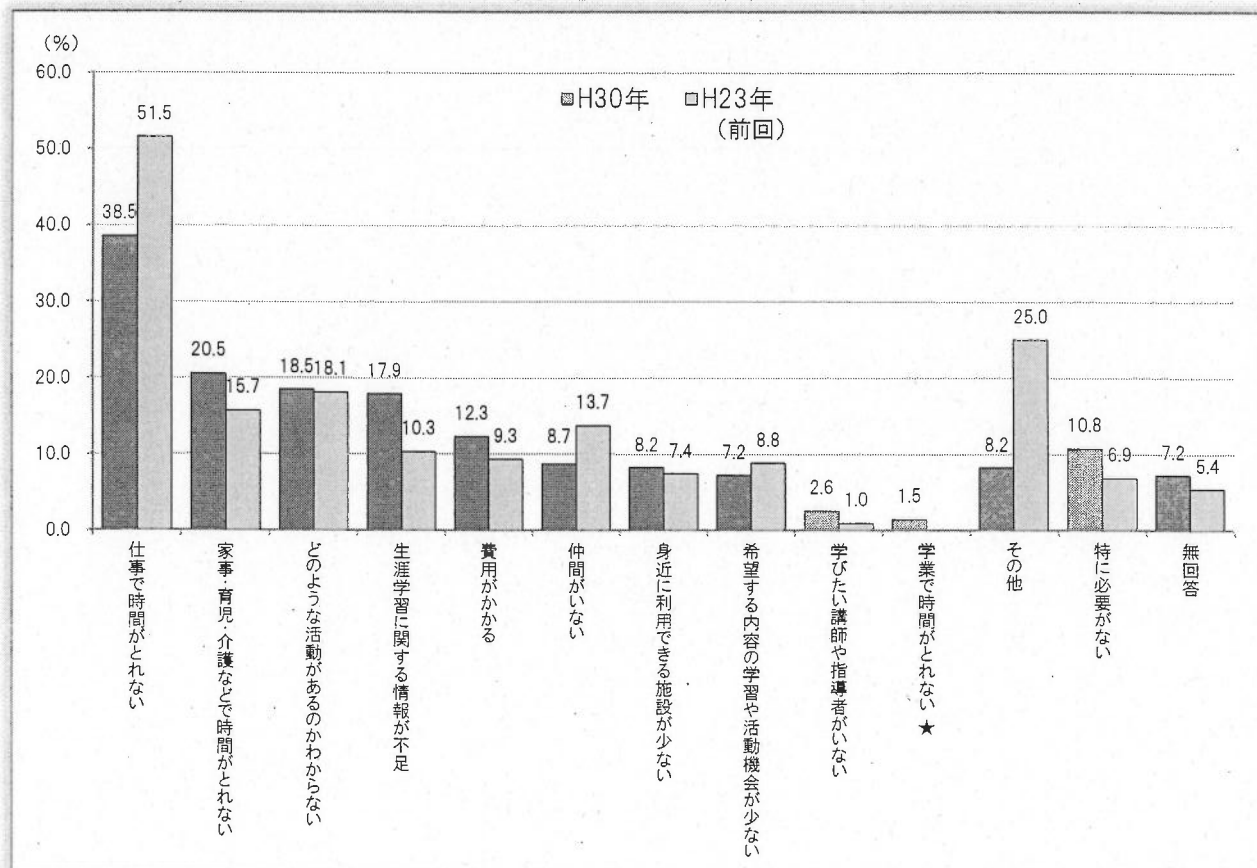
年代別で見ると、30歳未満は「学業」、30歳代～60歳代は「仕事」、70歳代は「生涯学習に関する情報が不足」、80歳以上は「その他」(体調不良、高齢等)が最も高くなっています。

なお、前回と比較すると、「生涯学習に関する情報が不足」の割合が2倍近く高くなっています。

(単位:%)

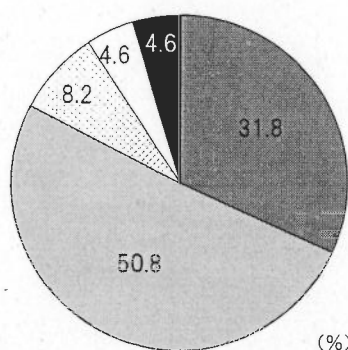
	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サンプル数	195人	93人	98人	4人	6人	21人	28人	31人	40人	43人	24人	2人
1 学業で時間がとれない ★	1.5	0.0	3.1	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 仕事で時間がとれない	38.5	45.2	31.6	50.0	0.0	61.9	67.9	64.5	35.0	18.6	0.0	50.0
3 家事・育児・介護などで時間がとれない	20.5	9.7	31.6	0.0	16.7	47.6	25.0	19.4	27.5	11.6	0.0	0.0
4 一緒にする仲間がない	8.7	8.6	7.1	50.0	0.0	4.8	3.6	9.7	7.5	14.0	8.3	50.0
5 費用がかかるのでできない	12.3	14.0	10.2	25.0	16.7	9.5	7.1	16.1	17.5	11.6	8.3	0.0
6 どのような活動があるかわからない	18.5	19.4	18.4	0.0	33.3	23.8	7.1	25.8	17.5	20.9	12.5	0.0
7 学びたい講師や指導者がいない	2.6	3.2	2.0	0.0	0.0	4.8	0.0	3.2	2.5	4.7	0.0	0.0
8 身近に利用できる施設が少ない	8.2	7.5	9.2	0.0	16.7	9.5	3.6	6.5	10.0	9.3	8.3	0.0
9 希望する内容の学習や活動機会が少ない	7.2	8.6	6.1	0.0	16.7	14.3	0.0	9.7	5.0	11.6	0.0	0.0
10 生涯学習に関する情報が不足している	17.9	24.7	12.2	0.0	33.3	19.0	10.7	12.9	22.5	27.9	4.2	0.0
11 その他	8.2	7.5	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	12.5	7.0	29.2	0.0
12 特に必要がない	10.8	10.8	10.2	25.0	16.7	0.0	14.3	3.2	7.5	16.3	16.7	50.0
無回答	7.2	6.5	8.2	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	5.0	7.0	29.2	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



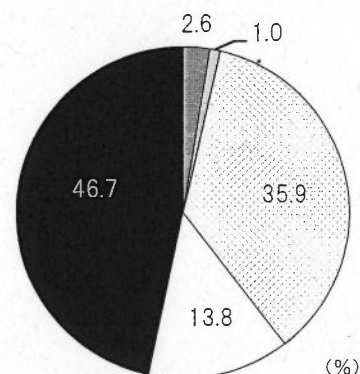
①生涯学習の必要性(問6)

- ☒ 必要
☐ どちらかといえば必要
☐ どちらかといえば不要
☐ 不要
☒ 無回答

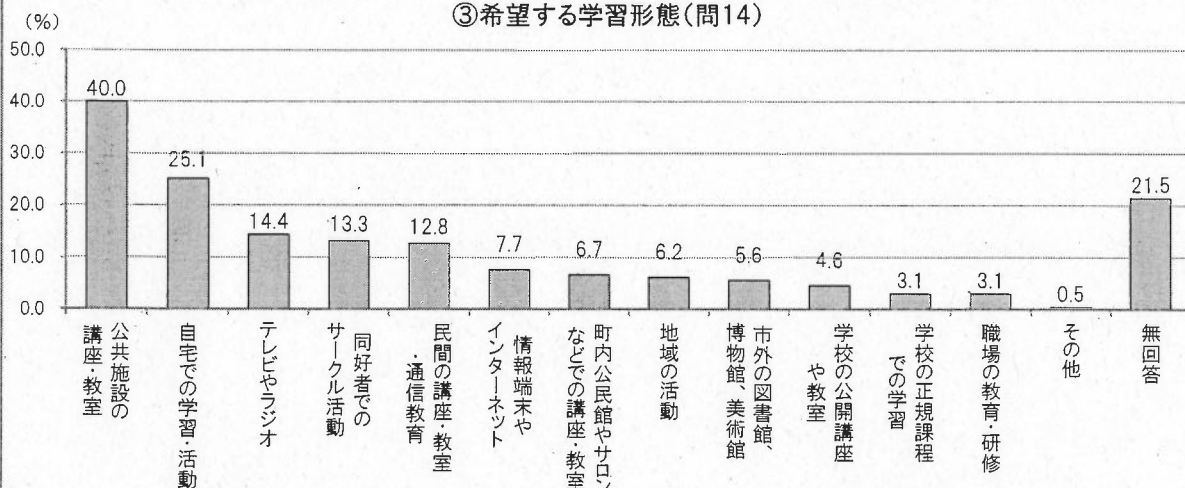


②知識・技術の活用(問19)

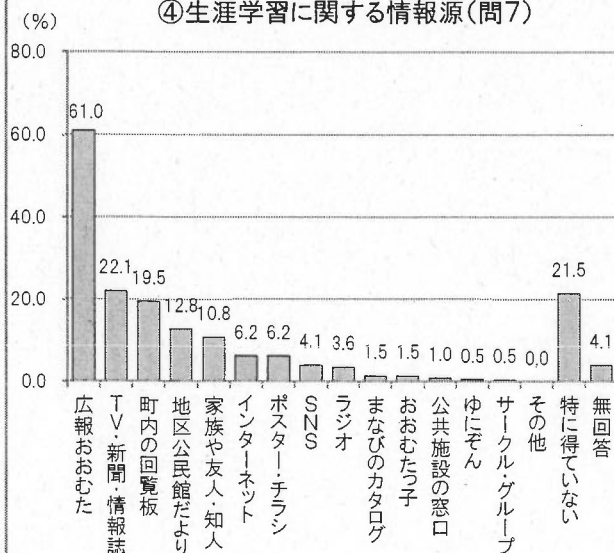
- ☒ 既に活かしている
☐ 是非いかしたい
☐ 機会があれば活かしたい
☐ 活かすつもりはない
☒ 無回答



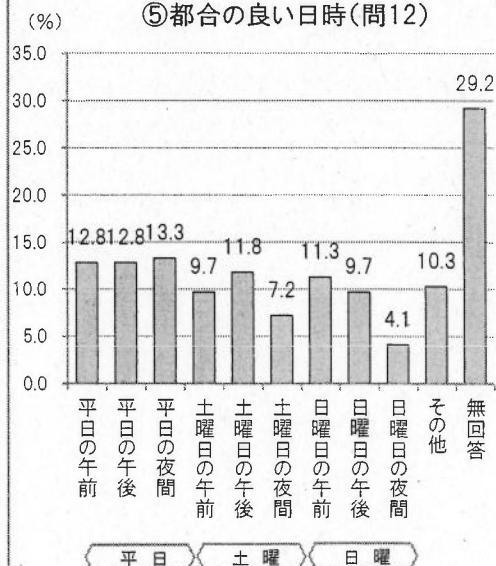
③希望する学習形態(問14)



④生涯学習に関する情報源(問7)



⑤都合の良い日時(問12)



◆生涯学習を行うために都合の良い日時

問12 あなたが生涯学習を行うにあたり、都合の良い日時はいつですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

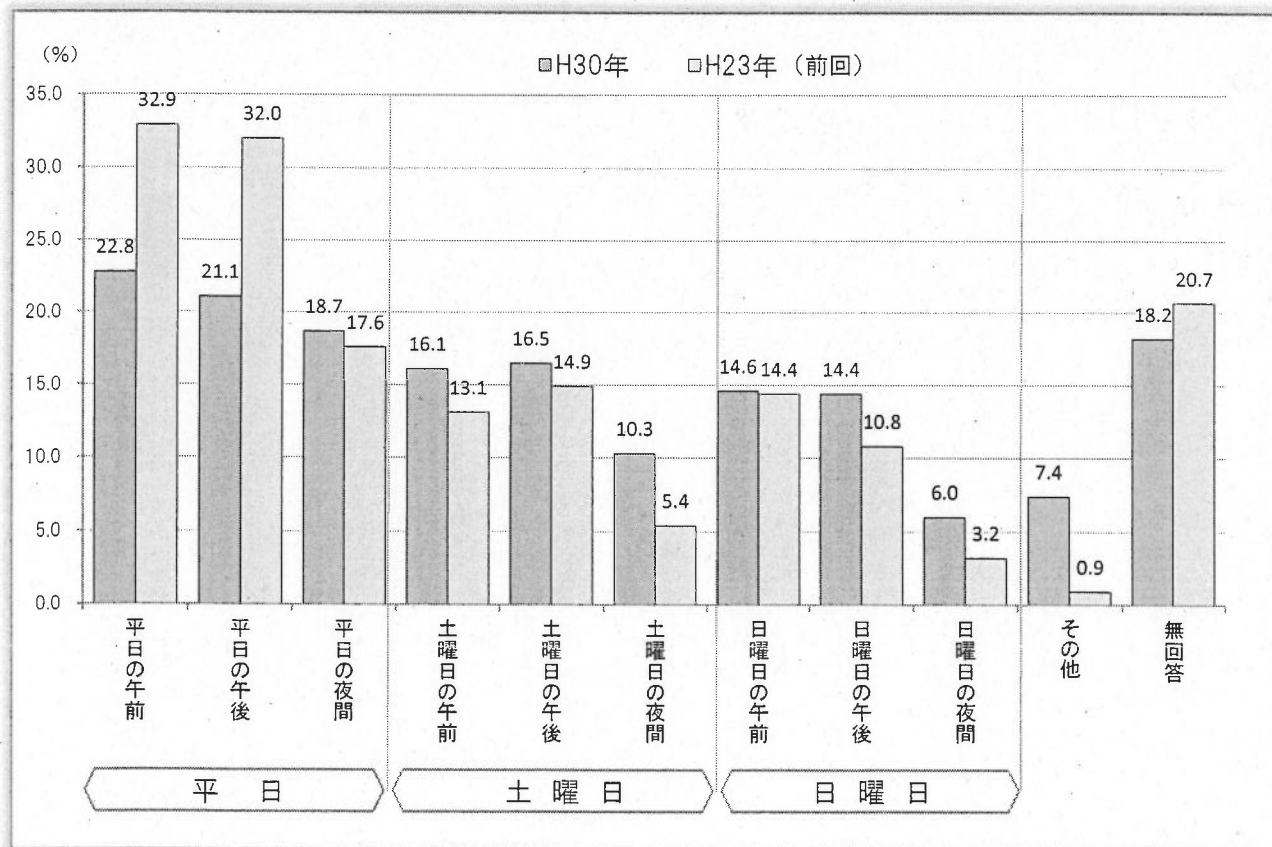
生涯学習を行うために都合の良い日時は、「平日の午前」(22.8%)が最も多く、次いで、「平日の午後」(21.1%)、「平日の夜間」(18.7%)となっています。平日、土曜日、日曜日をそれぞれ時間区分で見ると、順位は前回と同じ結果となっていますが、平日の午前・午後の割合が10ポイント近く下がり、逆に土曜日の夜間と日曜日の夜間の割合は2倍近く増加しています。

なお、年代別では、60歳未満は「平日の夜間」、60歳代は「平日の午前」、70歳代は「平日の午後」が最も高くなっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サンプル数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 平日(月～金曜日)の午前	22.8	17.2	27.2	11.1	8.0	20.5	10.7	10.9	38.3	30.3	22.8	16.7
2 平日(月～金曜日)の午後	21.1	20.7	20.9	33.3	4.0	15.4	12.5	6.3	27.2	36.0	22.8	50.0
3 平日(月～金曜日)の夜間	18.7	17.8	20.1	0.0	44.0	30.8	33.9	28.1	9.9	9.0	3.5	0.0
4 土曜日の午前	16.1	20.1	13.8	0.0	28.0	23.1	16.1	23.4	13.6	15.7	3.5	0.0
5 土曜日の午後	16.5	17.8	16.3	0.0	24.0	28.2	14.3	23.4	14.8	15.7	5.3	0.0
6 土曜日の夜間	10.3	11.8	9.6	0.0	32.0	25.6	17.9	12.5	4.9	3.4	0.0	0.0
7 日曜日の午前	14.6	18.9	11.7	11.1	28.0	20.5	19.6	23.4	13.6	6.7	3.5	16.7
8 日曜日の午後	14.4	18.3	11.7	11.1	36.0	23.1	16.1	21.9	9.9	9.0	3.5	16.7
9 日曜日の夜間	6.0	10.1	3.3	0.0	20.0	15.4	7.1	6.3	4.9	2.2	0.0	0.0
10 その他	7.4	9.5	6.3	0.0	0.0	2.6	7.1	17.2	8.6	2.2	10.5	0.0
無回答	18.2	18.3	16.7	55.6	4.0	7.7	12.5	6.3	14.8	22.5	47.4	33.3

※「夜間」とは午後5時以降をいいます。



◆学習ニーズ

問13 あなたは、どのようなことを学んでみたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

学習ニーズは、「健康・スポーツ」(42.7%)が最も高く、次いで、「趣味的なもの」(40.3%)、「家庭生活に役立つこと」(26.6%)、「教養的なもの」(22.8%)、「医療・福祉に関すること」(20.6%)となっています。年代別に見ても、「健康・スポーツ」は、80歳未満までの各年代において割合が高くなっています。

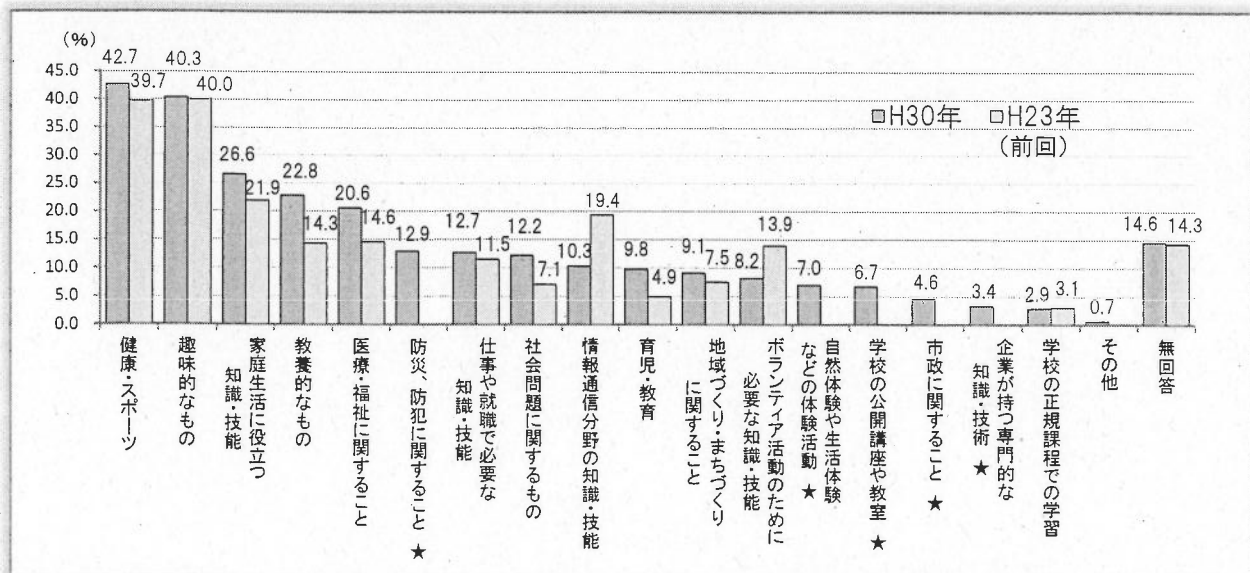
性別でみると、男性で割合が高いのは、「社会問題に関するもの」「地域づくり・まちづくりに関すること」「市政に関すること」で、女性で割合が高いのは、「趣味的なもの」「家庭生活に役立つ知識・技能」「育児・教育」となっています。

前回と比較すると、「情報通信分野に関する知識・技能」の割合が大きく低下しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)	40.3	28.4	49.4	22.2	72.0	51.3	33.9	37.5	45.7	38.2	24.6	33.3
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	22.8	27.2	20.1	11.1	24.0	20.5	26.8	26.6	34.6	14.6	12.3	16.7
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など)	12.2	20.7	6.7	0.0	20.0	12.8	5.4	10.9	16.0	10.1	15.8	0.0
4 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)	42.7	40.8	45.2	11.1	52.0	56.4	42.9	39.1	44.4	52.8	17.5	16.7
5 家庭生活に役立つ知識・技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	26.6	11.8	37.2	22.2	36.0	43.6	19.6	29.7	32.1	19.1	17.5	33.3
6 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など)	9.8	4.7	13.8	0.0	40.0	41.0	17.9	3.1	1.2	2.2	0.0	0.0
7 仕事や就職に必要な知識・技能(仕事に關係のある知識の習得や資格の取得など)	12.7	11.2	13.8	11.1	36.0	30.8	32.1	17.2	2.5	0.0	1.8	0.0
8 情報通信分野の知識・技能(プログラムの使い方、ホームページの作り方など)	10.3	11.2	10.0	0.0	12.0	23.1	14.3	9.4	12.3	4.5	5.3	0.0
9 ボランティア活動のために必要な知識・技能	8.2	7.7	8.8	0.0	16.0	12.8	10.7	10.9	8.6	4.5	1.8	0.0
10 自然体験や生活体験などの体験活動 ★	7.0	5.9	7.9	0.0	16.0	20.5	3.6	6.3	6.2	5.6	1.8	0.0
11 防災、防犯に関すること ★	12.9	12.4	13.8	0.0	16.0	15.4	10.7	18.8	6.2	13.5	15.8	0.0
12 医療・福祉に関すること	20.6	19.5	20.9	33.3	32.0	15.4	17.9	23.4	9.9	27.0	24.6	16.7
13 地域づくり・まちづくりに関すること	9.1	12.4	7.1	0.0	16.0	10.3	14.3	7.8	7.4	6.7	8.8	0.0
14 市政に関すること ★	4.6	8.3	2.1	0.0	4.0	2.6	5.4	4.7	2.5	6.7	5.3	0.0
15 企業が持つ専門的な知識・技術 ★	3.4	4.1	2.5	11.1	4.0	12.8	8.9	3.1	1.2	0.0	0.0	0.0
16 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	2.9	2.4	3.3	0.0	8.0	10.3	7.1	0.0	1.2	1.1	0.0	0.0
17 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 ★	6.7	5.3	7.9	0.0	12.0	17.9	5.4	7.8	7.4	4.5	0.0	0.0
18 その他	0.7	0.6	0.8	0.0	0.0	2.6	0.0	1.6	0.0	0.0	1.8	0.0
無回答	14.6	16.0	13.0	33.3	4.0	7.7	8.9	6.3	11.1	15.7	40.4	33.3

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆希望する場所・形態

問14 あなたは、今後どのような場所や形態で生涯学習をしたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

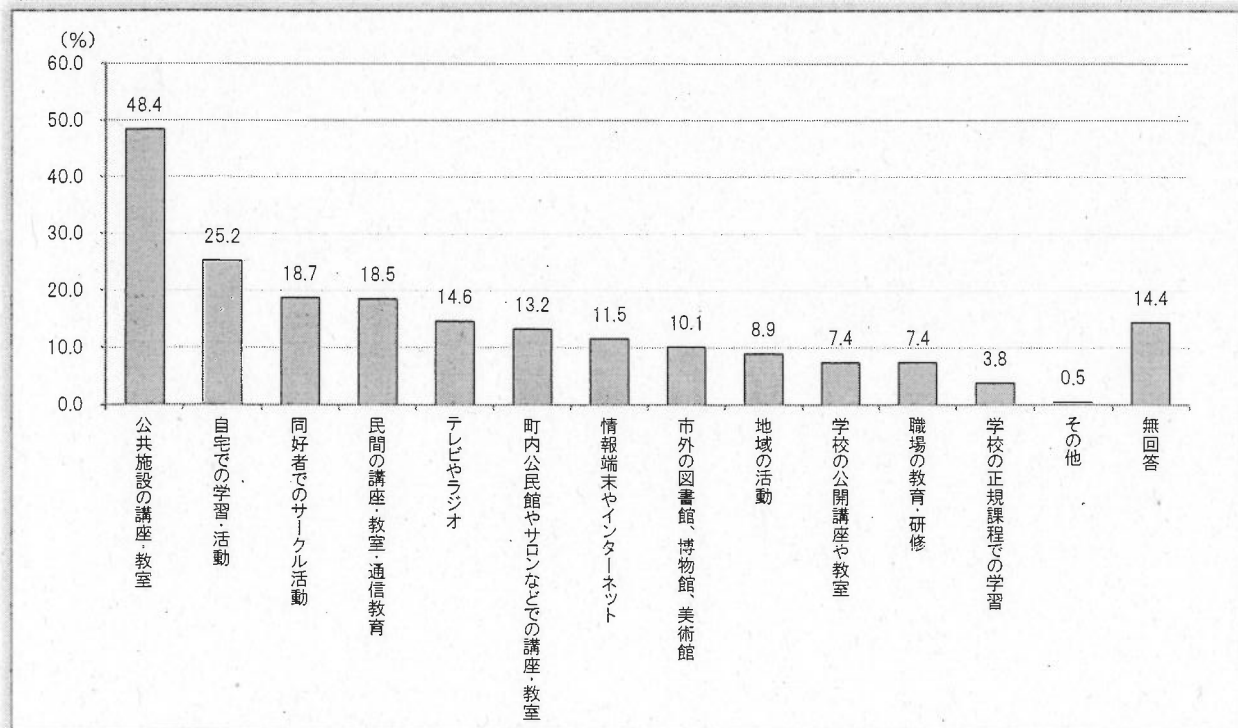
希望する場所・形態は、「公共施設の講座・教室」(48.4%)が最も高く、次いで、「自宅での学習・活動」(25.2%)、「同好者でのサークル活動」(18.7%)、「民間の講座・通信教育」(18.5%)、「テレビやラジオ」(14.6%)となっています。

年代別に見ても、80歳以上を除く全ての年代で「公共施設の講座・教室」が最も高くなっています。

性別で見ると、「職場の教育・研修」「テレビやラジオ」については、男性の割合が女性の約2倍となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室	48.4	42.6	53.6	22.2	52.0	61.5	53.6	53.1	53.1	48.3	24.6	16.7
2 カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座・教室・通信教育	18.5	15.4	20.9	11.1	28.0	35.9	17.9	26.6	17.3	12.4	5.3	16.7
3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程での学習	3.8	3.0	4.6	0.0	12.0	12.8	8.9	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	7.4	7.7	7.5	0.0	16.0	15.4	10.7	4.7	8.6	5.6	0.0	0.0
5 職場の教育・研修	7.4	11.2	4.6	11.1	24.0	5.1	23.2	12.5	2.5	0.0	0.0	0.0
6 町内公民館、PTA、子ども会などの地域の活動	8.9	9.5	8.4	11.1	8.0	17.9	14.3	3.1	7.4	9.0	5.3	16.7
7 町内公民館やサロンなどでの講座・教室	13.2	10.1	15.5	11.1	12.0	7.7	7.1	4.7	17.3	19.1	17.5	16.7
8 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	18.7	18.3	19.7	0.0	28.0	10.3	12.5	18.8	23.5	21.3	17.5	0.0
9 市外の図書館、博物館、美術館	10.1	10.1	10.5	0.0	24.0	15.4	7.1	12.5	13.6	6.7	1.8	0.0
10 テレビやラジオ	14.6	19.5	11.7	0.0	16.0	7.7	8.9	12.5	16.0	15.7	24.6	0.0
11 情報端末やインターネット(eラーニング含む)	11.5	12.4	11.3	0.0	32.0	17.9	17.9	12.5	14.8	2.2	0.0	16.7
12 自宅での学習・活動(書籍など)	25.2	28.4	23.4	11.1	32.0	17.9	21.4	34.4	23.5	27.0	22.8	0.0
13 その他	0.5	1.2	0.0	0.0	0.0	2.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	14.4	12.4	14.6	44.4	4.0	7.7	5.4	7.8	12.3	14.6	42.1	16.7



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこと

問15 生涯学習が盛んなまちにするために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号に5つまで○印をつけてください。

生涯学習を盛んなまちにするために行政が力を入れるべきことは、「専門的な職員等の配置」(28.5%)が最も高く、次いで、「若者への教育の充実」(28.3%)、「公共施設の講座等の充実」(22.1%)、「施設の利用手続きの簡素化」「詳細な学習情報の提供」(21.1%)となっています。

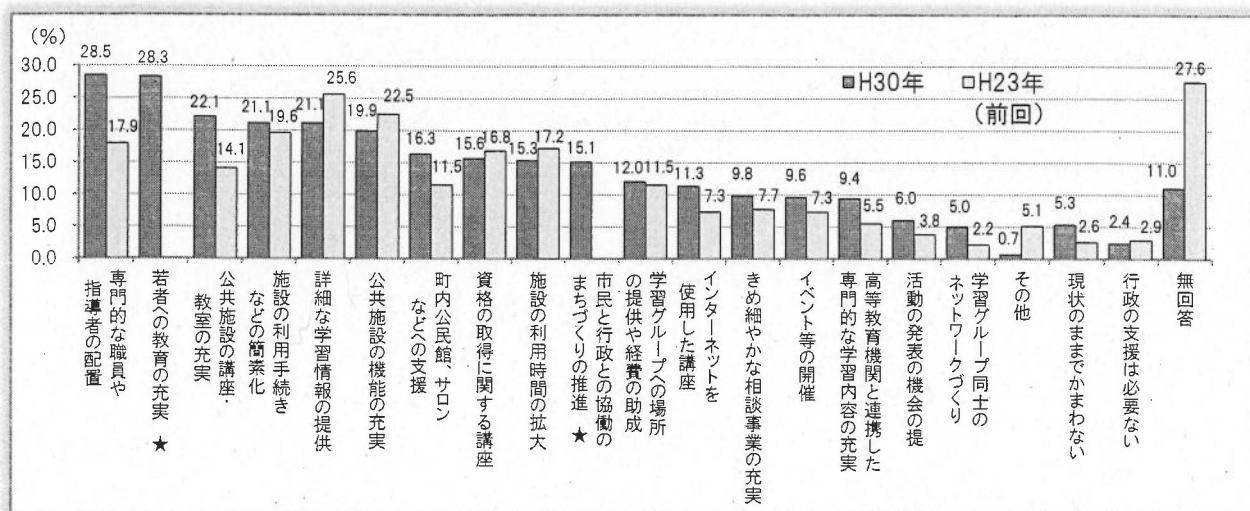
年代別では、30歳未満は「施設の利用時間拡大」、30歳代、50歳代は「専門的な職員・指導者の配置」、40歳代は「学習についての情報」、60歳代は「公共施設の講座の充実」、70歳以上は「次世代を担う若者への教育の充実」が最も高くなっています。

前回と比較すると、「専門的な職員等の配置」と「公共施設の講座等の充実」の割合が大きく上昇しています。順位が大きく変動していますが、上位5項目のうち「専門的な職員等の配置」、「施設の利用手続きの簡素化」、「詳細な学習情報の提供」については、前回も上位5項目に入っていたものです。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 専門的な職員や指導者の配置	28.5	30.8	26.4	44.4	16.0	38.5	28.6	29.7	24.7	29.2	29.8	33.3
2 大学等高等教育機関と連携した専門的な学習内容の充実	9.4	12.4	6.7	22.2	20.0	15.4	8.9	7.8	8.6	9.0	3.5	16.7
3 次世代を担う若者への教育の充実 ★	28.3	26.0	30.1	22.2	28.0	35.9	25.0	25.0	23.5	30.3	35.1	16.7
4 施設の利用手続きなどの簡素化	21.1	18.9	22.2	33.3	16.0	20.5	17.9	28.1	25.9	14.6	17.5	66.7
5 施設の利用時間の拡大(早朝、夜間など)	15.3	13.0	16.3	33.3	40.0	28.2	17.9	15.6	17.3	3.4	5.3	50.0
6 きめ細やかな相談事業の充実	9.8	8.9	10.5	11.1	12.0	12.8	8.9	7.8	13.6	2.2	15.8	16.7
7 地域住民がつどう町内公民館、サロンなどへの支援	16.3	12.4	18.8	22.2	8.0	17.9	12.5	7.8	18.5	24.7	14.0	33.3
8 学習についての情報(講師・内容・時間・場所・費用)をより詳細に提供する	21.1	24.9	19.2	0.0	24.0	20.5	30.4	28.1	22.2	14.6	14.0	0.0
9 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの施設の機能を充実させる	19.9	16.0	23.0	11.1	16.0	28.2	26.8	23.4	17.3	21.3	7.0	16.7
10 地区公民館、えるる、市立図書館、市民体育館、文化会館などの講座・教室を充実させる	22.1	16.6	26.4	11.1	12.0	25.6	25.0	26.6	32.1	15.7	12.3	16.7
11 啓発のためのフェスティバルやイベントを行う	9.6	9.5	10.0	0.0	24.0	23.1	17.9	4.7	4.9	6.7	3.5	0.0
12 学習グループに、場所の提供や経費の助成を行う	12.0	10.1	13.4	11.1	0.0	7.7	14.3	17.2	14.8	10.1	10.5	16.7
13 学習グループ同士のネットワークづくりの支援を行う	5.0	4.7	5.4	0.0	16.0	7.7	3.6	4.7	4.9	3.4	3.5	0.0
14 資格の取得につながる講座を行う	15.6	14.2	16.3	22.2	28.0	28.2	28.6	23.4	7.4	5.6	7.0	16.7
15 インターネットを使用した講座を行う	11.3	8.9	13.4	0.0	28.0	15.4	25.0	12.5	7.4	4.5	1.8	16.7
16 活動の発表の機会を提供する	6.0	5.9	6.3	0.0	8.0	7.7	7.1	6.3	6.2	6.7	1.8	0.0
17 市民と行政との協働のまちづくりの推進 ★	15.1	16.6	14.6	0.0	20.0	2.6	17.9	7.8	18.5	20.2	14.0	16.7
18 その他	0.7	1.2	0.4	0.0	0.0	2.6	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
19 現状のままでかまわない	5.3	4.1	6.3	0.0	8.0	7.7	5.4	4.7	4.9	4.5	5.3	0.0
20 学習は自主的な活動なので行政の支援は必要ない	2.4	2.4	2.1	11.1	8.0	2.6	3.6	0.0	4.9	0.0	1.8	0.0
無回答	11.0	13.0	9.6	11.1	0.0	7.7	1.8	4.7	8.6	21.3	22.8	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの



◆少子・高齢化社会における教育行政の在り方

問16 少子・高齢化が進む中、行政が、特に力を入れて進めるべき取組みはどのようなことだと思いますか(学校教育を除きます)。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

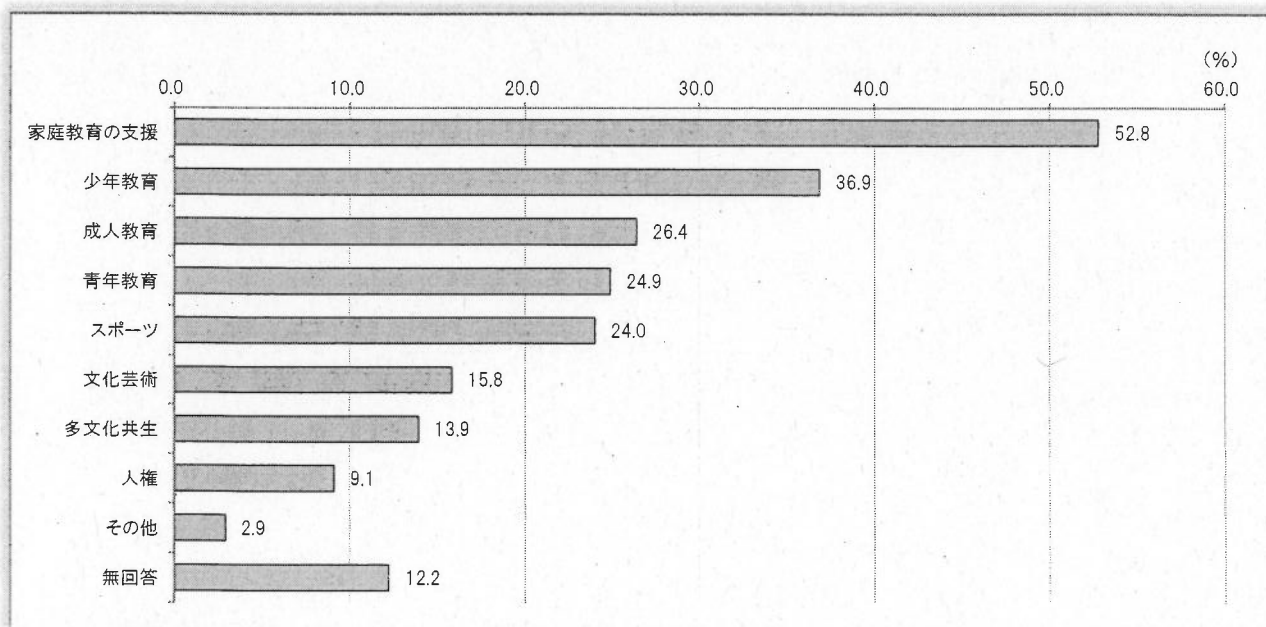
少子・高齢化社会において行政が特に力を入れるべき取組みは、「家庭教育の支援」(52.8%)が最も高く、過半数におよんでいます。「少年教育」(36.9%)は約4割で2番目に高く、「成人教育」(26.4%)、「青年教育」(24.9%)、「スポーツ」(24.0%)は20%台で横並びとなっています。

年代別に見ても、80歳以上を除く全ての年代で「家庭教育の支援」が最も高くなっています。特に、30歳代は「家庭教育の支援」と「少年教育」の割合が、他の年代よりも高くなっています。

(単位: %)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 家庭教育の支援 (子育て講座の充実、子育てに関する情報提供など)	52.8	49.7	54.8	55.6	68.0	71.8	58.9	60.9	49.4	48.3	29.8	50.0
2 少年教育 (子どもの体験活動、読書活動の充実など)	36.9	39.1	35.6	33.3	40.0	51.3	37.5	37.5	40.7	32.6	26.3	33.3
3 青年教育 (青年の社会参加の促進など)	24.9	26.6	23.8	22.2	16.0	23.1	25.0	20.3	35.8	20.2	26.3	33.3
4 成人教育 (各種講座・教室の充実、学習情報の提供など)	26.4	19.5	31.4	22.2	28.0	15.4	39.3	21.9	28.4	28.1	21.1	16.7
5 スポーツ (スポーツ事業の充実、スポーツ大会の奨励など)	24.0	27.8	22.2	0.0	36.0	30.8	19.6	35.9	18.5	23.6	14.0	16.7
6 文化芸術 (文化芸術事業の充実など)	15.8	15.4	16.7	0.0	28.0	10.3	12.5	23.4	14.8	11.2	19.3	0.0
7 人権 (人権教育・啓発活動など)	9.1	11.8	6.7	22.2	4.0	5.1	5.4	7.8	13.6	11.2	8.8	16.7
8 多文化共生 (国際交流など)	13.9	12.4	15.1	11.1	28.0	10.3	19.6	15.6	16.0	10.1	7.0	0.0
9 その他	2.9	2.4	2.9	11.1	4.0	2.6	8.9	4.7	0.0	1.1	1.8	0.0
無回答	12.2	13.6	11.3	11.1	0.0	5.1	5.4	1.6	11.1	18.0	35.1	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



(2)学んだ成果について

◆生涯学習によって変わったこと

問17 あなたは、これまでに生涯学習を行って、自分がどのように変わったと感じますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

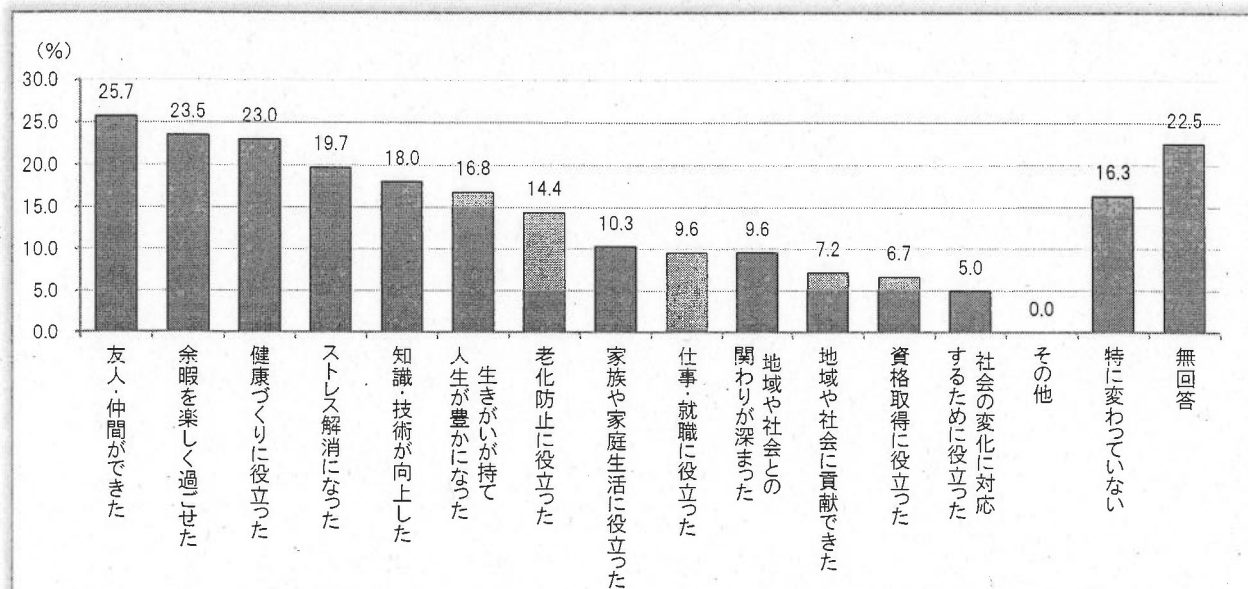
生涯学習を行って自身が変わったと感じたことは、「友人・仲間ができた」(25.7%)が最も多く、次いで、「余暇を楽しく過ごせた」(23.5%)、「健康づくりに役立った」(23.0%)、「ストレス解消になった」(19.7%)、「知識・技術が向上した」(18.0%)となっています。

性別で見ると、殆どの選択肢において女性の方が割合が高い中、「資格取得に役立った」「仕事・就職に役立った」「特に変わっていない」などは男性が高くなっています。

年代別では、30歳未満は「余暇を楽しく過ごせた」「友人・仲間ができた」「知識・技術が向上した」、30歳代は「知識・技術が向上した」、40歳代は「特に変わっていない」、50歳代は「ストレス解消になった」、60歳代は「余暇を楽しく過ごせた」、70歳代は「健康づくりに役立った」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 余暇を楽しく過ごせた	23.5	18.9	26.8	22.2	36.0	10.3	12.5	21.9	22.2	29.2	31.6	33.3
2 生きがいを持って人生が豊かになった	16.8	12.4	19.7	22.2	12.0	10.3	8.9	21.9	19.8	20.2	14.0	33.3
3 ストレス解消になった	19.7	13.6	24.3	11.1	16.0	30.8	7.1	28.1	18.5	18.0	21.1	16.7
4 友人・仲間ができた	25.7	14.8	33.5	22.2	36.0	20.5	25.0	15.6	33.3	28.1	21.1	33.3
5 健康づくりに役立った	23.0	17.8	26.8	22.2	24.0	20.5	17.9	18.8	21.0	32.6	22.8	16.7
6 老化防止に役立った	14.4	13.0	15.5	11.1	0.0	2.6	1.8	3.1	12.3	31.5	29.8	16.7
7 家族や家庭生活に役立った	10.3	8.9	11.7	0.0	8.0	7.7	10.7	14.1	8.6	9.0	14.0	0.0
8 知識・技術が向上した	18.0	15.4	20.1	11.1	36.0	33.3	17.9	21.9	18.5	9.0	8.8	16.7
9 資格取得に役立った	6.7	9.5	5.0	0.0	24.0	5.1	10.7	9.4	4.9	2.2	3.5	0.0
10 仕事・就職に役立った	9.6	12.4	7.5	11.1	32.0	20.5	16.1	9.4	7.4	2.2	1.8	0.0
11 地域や社会との関わりが深まった	9.6	8.9	10.5	0.0	4.0	5.1	12.5	10.9	8.6	9.0	14.0	0.0
12 地域や社会に貢献できた	7.2	7.7	7.1	0.0	8.0	5.1	12.5	6.3	9.9	4.5	5.3	0.0
13 社会の変化に対応するために役立った	5.0	6.5	4.2	0.0	12.0	2.6	7.1	4.7	4.9	5.6	1.8	0.0
14 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15 特に変わっていない	16.3	23.1	11.3	22.2	12.0	17.9	26.8	15.6	16.0	13.5	12.3	16.7
無回答	22.5	22.5	22.2	33.3	4.0	20.5	14.3	17.2	21.0	31.5	33.3	33.3



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆学んだ成果の活用状況

問18 あなたは、これまでの人生や生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験をどのようなことに活かしていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

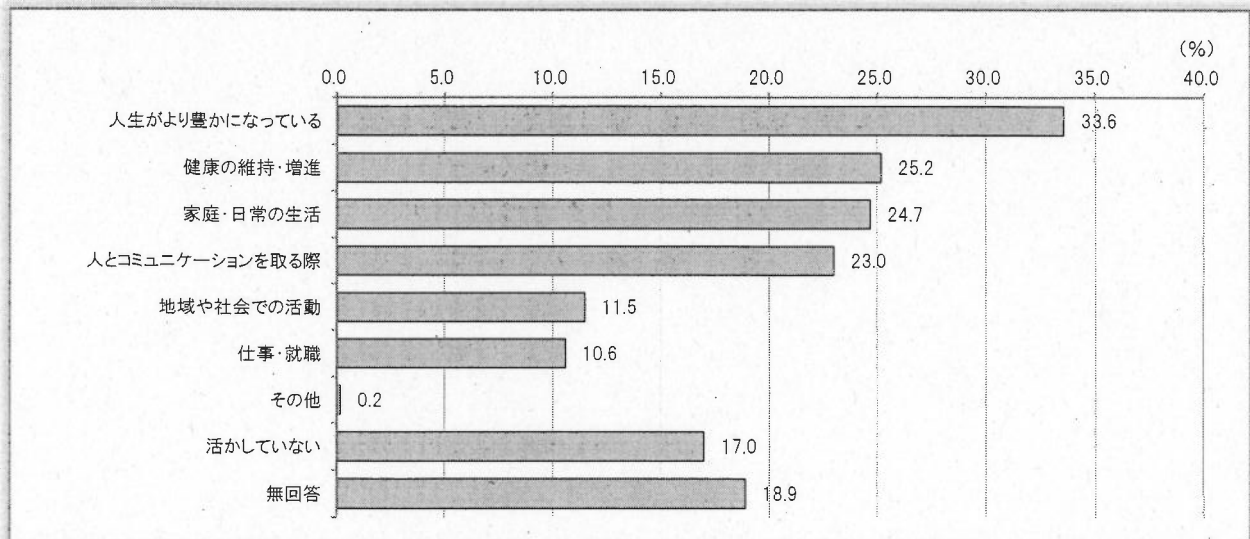
身につけた知識・技能等の活用法は、「人生がより豊かになっている」(33.6%)が最も多く、次いで「健康の維持・増進」(25.2%)、「家庭・日常生活」(24.7%)、「人とコミュニケーションを取る際」(23.0%)、「地域や社会での活動」(11.5%)となっています。

性別で見ると、女性は「自分の人生が豊かになっている」の割合が高く、男性は「活かしていない」の割合が女性と比較して2倍以上高くなっています。

年代別では、40歳代が「活かしていない」、70歳代が「健康の維持・増進」で、それ以外の年代は、「人生がより豊かになっている」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 自分の人生がより豊かになっている	33.6	27.2	38.5	22.2	52.0	35.9	25.0	31.3	30.9	32.6	40.4	33.3
2 自分の健康を維持・増進している	25.2	23.7	26.4	22.2	12.0	15.4	17.9	20.3	18.5	41.6	33.3	33.3
3 家庭・日常生活に活かしている	24.7	25.4	25.1	0.0	20.0	33.3	25.0	29.7	21.0	25.8	21.1	0.0
4 人と接したり、コミュニケーションを取る際に活かしている	23.0	20.1	25.1	22.2	44.0	30.8	19.6	21.9	22.2	20.2	17.5	33.3
5 仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)	10.6	10.1	11.3	0.0	28.0	28.2	21.4	12.5	4.9	1.1	1.8	0.0
6 地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)	11.5	13.0	10.9	0.0	12.0	5.1	14.3	10.9	14.8	10.1	12.3	0.0
7 その他	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 活かしていない	17.0	23.7	11.3	44.4	16.0	10.3	26.8	17.2	23.5	12.4	10.5	16.7
無回答	18.9	19.5	18.4	22.2	4.0	17.9	8.9	15.6	14.8	28.1	29.8	33.3



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆学んだ成果の活用の意思

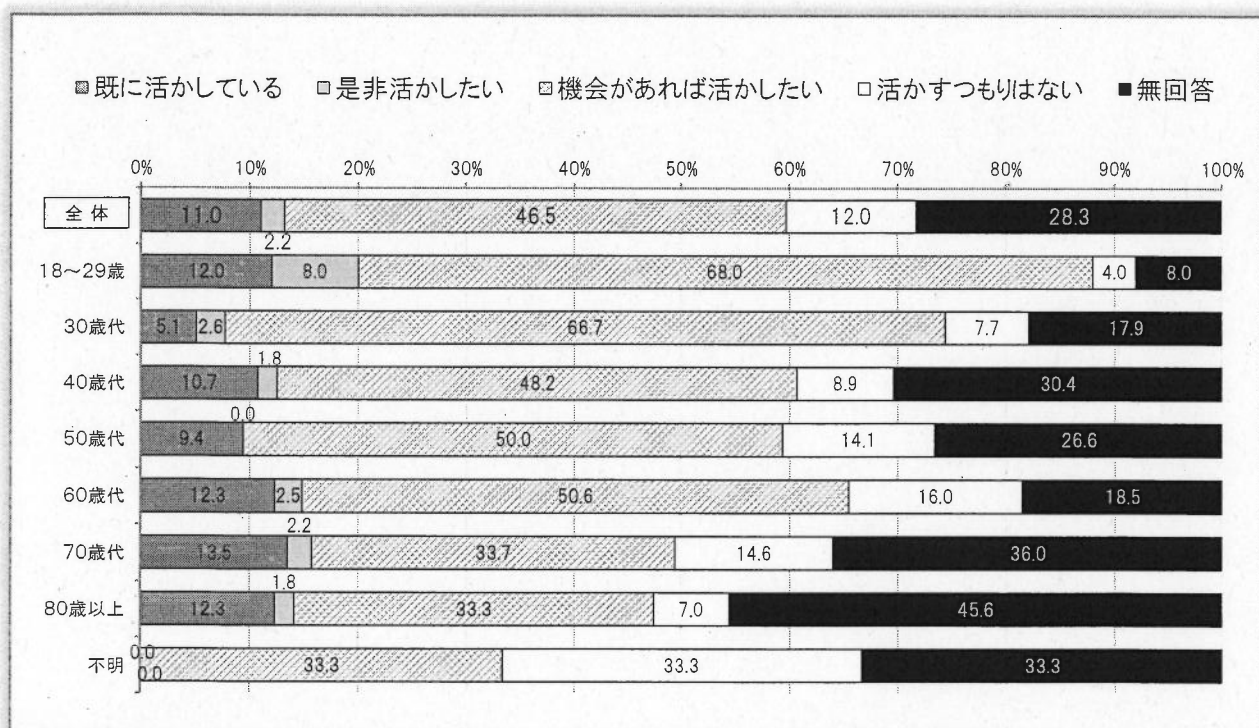
問19 あなたは、これまで身につけた知識や技能を、地域活動やボランティア活動などを通して、地域や人々のために活かしたいと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

身につけた知識・技能を活用する意思は、「機会があれば活かしたい」(46.5%)が最も多く、次いで、「活かすつもりはない」(12.0%)、「既に活かしている」(11.0%)、「是非活かしたい」(2.2%)となっています。「既に活かしている」「是非活かしたい」「機会があれば活かしたい」を合わせると、全体の約6割の人が、自分の知識や技能を、何かしらに活かしたいと考えていることになります。

年代別に見ると、70歳未満は「機会があれば活かしたい」の割合が最も高くなっています。特に、40歳未満については他の年代と比べて割合がかなり高く、約7割におよんでいます。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サンプル数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 既に活かしている	11.0	11.8	10.9	0.0	12.0	5.1	10.7	9.4	12.3	13.5	12.3	0.0
2 是非活かしたい	2.2	2.4	2.1	0.0	8.0	2.6	1.8	0.0	2.5	2.2	1.8	0.0
3 機会があれば活かしたい	46.5	47.3	46.0	44.4	68.0	66.7	48.2	50.0	50.6	33.7	33.3	33.3
4 活かすつもりはない	12.0	9.5	13.4	22.2	4.0	7.7	8.9	14.1	16.0	14.6	7.0	33.3
無回答	28.3	29.0	27.6	33.3	8.0	17.9	30.4	26.6	18.5	36.0	45.6	33.3



※H23年調査時に当該設問なし

◆学習の成果を活かしていない理由(活かせない理由)

《問18で、生涯学習の成果を「活かしていない」とお答えの方におたずねします》

問20 あなたが学習によって得た知識、経験、技能を活かしていない理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

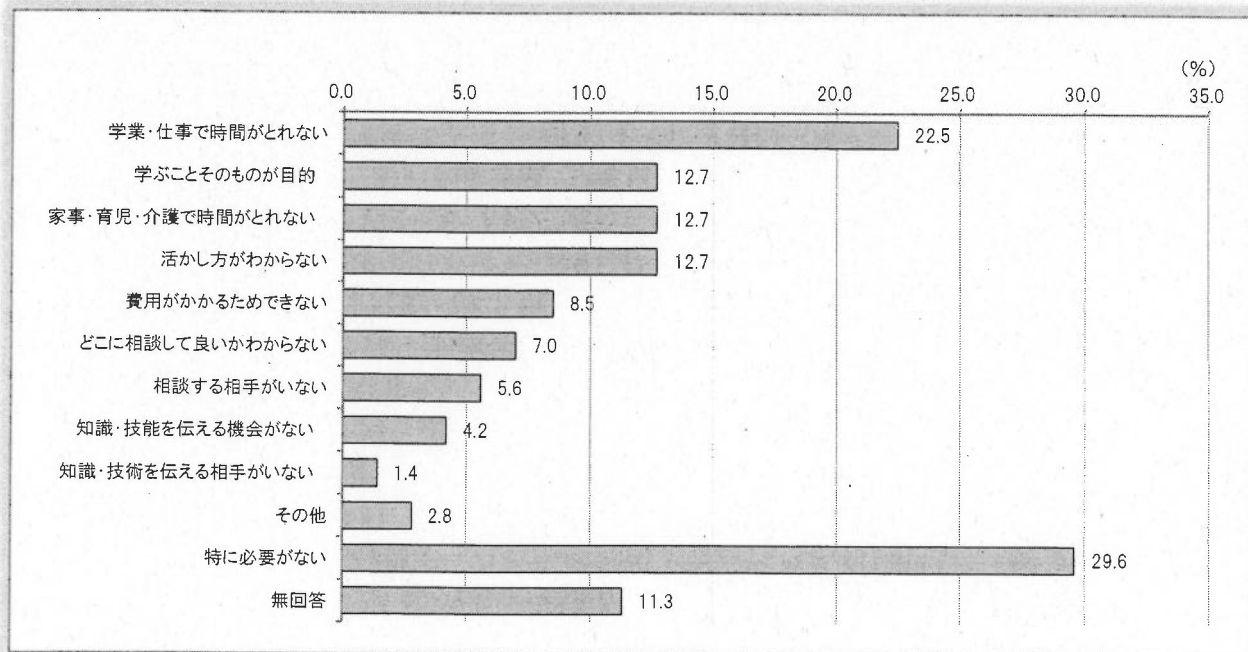
身につけた知識・技能を活かしていない理由(活かせない理由)は、「特に必要がない」(29.6%)が最も多く、全体の約3割を占めています。次いで、「学業・仕事」(22.5%)、「学ぶことが目的」「家事・育児・介護」「活かし方がわからない」(12.7%)となっています。性別で見ても、男性も女性も「特に必要がない」(女性は「家事・育児・介護で時間がとれない」が同率)の割合が最も高くなっています。

年代別では、30歳未満は「活かし方がわからない」、30歳代～40歳代は「学業・仕事」、50歳以上は「特に必要がない」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	71人	40人	27人	4人	4人	4人	15人	11人	19人	11人	6人	1人
1 学ぶことそのものが目的	12.7	17.5	7.4	0.0	0.0	25.0	0.0	18.2	15.8	27.3	0.0	0.0
2 学業・仕事で時間がとれない	22.5	27.5	18.5	0.0	0.0	50.0	40.0	18.2	21.1	18.2	0.0	0.0
3 家事・育児・介護で時間がとれない	12.7	5.0	25.9	0.0	25.0	25.0	26.7	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0
4 知識・技術を伝える相手がいない	1.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
5 知識・技能を伝える機会がない	4.2	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	18.2	0.0	0.0
6 活かし方がわからない	12.7	12.5	11.1	25.0	50.0	25.0	13.3	9.1	15.8	0.0	0.0	0.0
7 相談する相手がいない	5.6	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	33.3	0.0
8 どこに相談して良いかわからない	7.0	5.0	7.4	25.0	0.0	0.0	0.0	9.1	15.8	0.0	16.7	0.0
9 費用がかかるためできない	8.5	5.0	11.1	25.0	0.0	25.0	13.3	9.1	5.3	0.0	16.7	0.0
10 その他	2.8	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	16.7	0.0
11 特に必要がない	29.6	32.5	25.9	25.0	0.0	25.0	26.7	45.5	26.3	36.4	33.3	0.0
無回答	11.3	7.5	11.1	50.0	25.0	0.0	6.7	9.1	10.5	18.2	0.0	100.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆学んだ成果が活かされるまちにするために必要なこと

問21 学んだ成果を活かすために、何が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

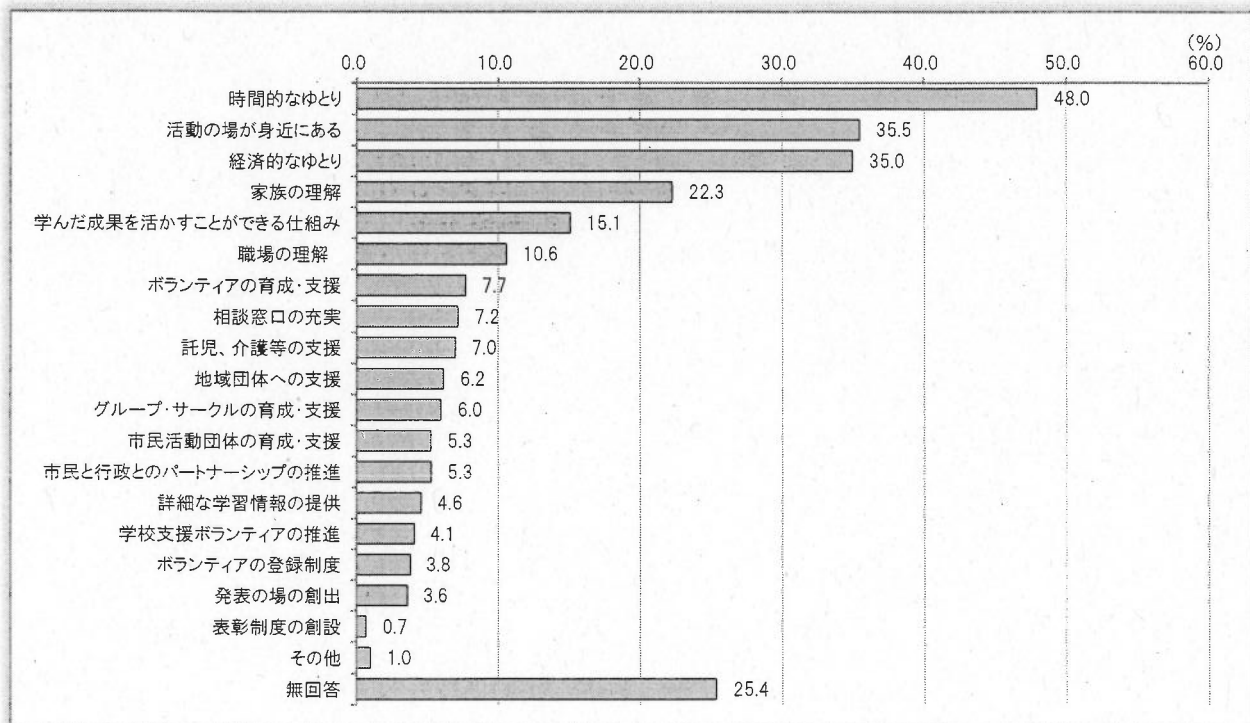
学んだ成果を活かすために必要なことは、「時間的なゆとり」(48.0%)が最も多く、次いで、「活動の場が身近にある」(35.5%)、「経済的なゆとり」(35.0%)、「家族の理解」(22.3%)、「学んだ成果を活かす仕組み」(15.1%)となっています。

性別で見ると、女性は「家族の理解」、男性は「職場の理解」がそれぞれ高く、また、年代別では、70歳未満は「時間的なゆとり」が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 活動の場が身近にある	35.5	33.1	37.7	22.2	52.0	41.0	33.9	34.4	38.3	32.6	28.1	33.3
2 経済的なゆとり	35.0	36.1	35.1	11.1	44.0	51.3	39.3	46.9	38.3	21.3	22.8	0.0
3 時間的なゆとり	48.0	45.6	51.0	11.1	68.0	69.2	67.9	59.4	59.3	24.7	17.5	0.0
4 家族の理解	22.3	13.0	29.3	11.1	20.0	30.8	21.4	20.3	21.0	21.3	24.6	16.7
5 職場の理解	10.6	14.2	7.9	11.1	28.0	17.9	26.8	15.6	2.5	3.4	0.0	0.0
6 託児、介護等の支援	7.0	5.3	8.4	0.0	12.0	15.4	10.7	7.8	3.7	4.5	3.5	0.0
7 ボランティアの育成・支援	7.7	6.5	8.8	0.0	16.0	5.1	5.4	10.9	4.9	10.1	5.3	0.0
8 ボランティアの登録制度	3.8	4.1	3.8	0.0	16.0	5.1	0.0	6.3	6.2	1.1	0.0	0.0
9 グループ・サークルの育成・支援	6.0	5.9	6.3	0.0	8.0	7.7	5.4	9.4	6.2	5.6	1.8	0.0
10 市民活動団体の育成・支援	5.3	5.3	5.4	0.0	8.0	7.7	7.1	9.4	4.9	2.2	1.8	0.0
11 地域団体への支援	6.2	8.3	5.0	0.0	16.0	5.1	7.1	6.3	2.5	7.9	5.3	0.0
12 詳細な学習情報の提供(SNSなど)	4.6	6.5	3.3	0.0	16.0	2.6	8.9	7.8	1.2	3.4	0.0	0.0
13 発表の場の創出(イベントなど)	3.6	1.8	5.0	0.0	8.0	12.8	3.6	1.6	1.2	3.4	1.8	0.0
14 相談窓口の充実	7.2	7.1	7.5	0.0	12.0	10.3	3.6	9.4	7.4	3.4	10.5	0.0
15 学んだ成果を活かすことができる仕組みづくり	15.1	16.0	14.2	22.2	32.0	12.8	17.9	18.8	17.3	10.1	5.3	33.3
16 市民(市民活動団体、地域団体など)と行政とのパートナーシップの推進	5.3	7.1	4.2	0.0	0.0	2.6	8.9	7.8	4.9	5.6	3.5	0.0
17 学校支援ボランティアの推進	4.1	5.3	3.3	0.0	12.0	2.6	7.1	4.7	1.2	4.5	1.8	0.0
18 表彰制度の創設	0.7	1.2	0.4	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.8	0.0
19 その他	1.0	1.2	0.8	0.0	0.0	2.6	1.8	0.0	0.0	1.1	1.8	0.0
無回答	25.4	26.6	23.4	55.6	0.0	7.7	10.7	18.8	23.5	42.7	43.9	50.0

※H23年調査時に当該設問なし



(3) ボランティア活動・地域活動について

◆ ボランティア活動の頻度

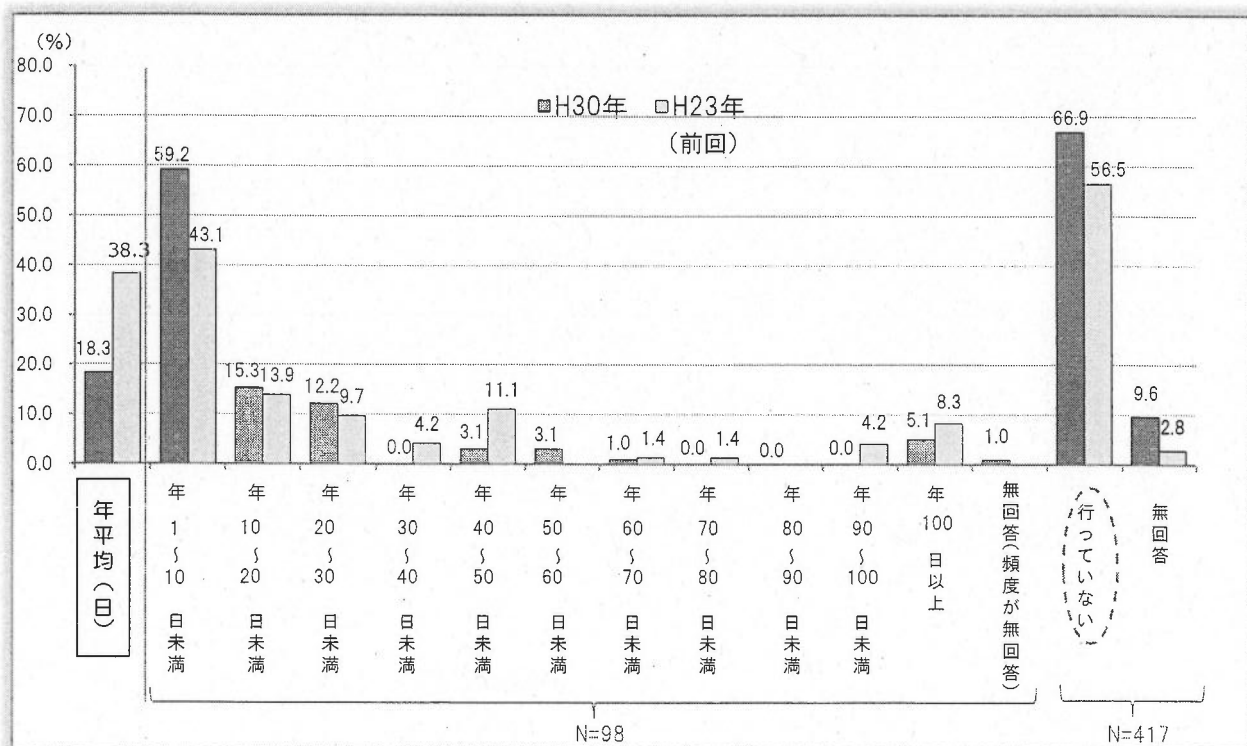
問22 ボランティア活動についておたずねします。あなたは、この1年くらいの間に、どのくらいの頻度でボランティア活動を行いましたか。

ボランティア活動については、全体の約7割の人が「行っていない」(66.9%)と回答しています。また、活動を行った98人のうち、この1年くらいの間に参加した頻度(日数)は、「年1～10日未満」(59.2%)が最も多く、次いで、「年10～20日未満」(15.3%)、「年20～30日未満」(12.2%)、「年100日以上」(5.1%)、「年40～50日未満」「年50～60日未満」(3.1%)となっています。

前回と比較すると、「行っていない」の割合が10ポイント以上高くなり、また、年平均の回数は20日減少して半分以下となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	98人	42人	56人	0人	4人	8人	14人	18人	21人	26人	7人	0人
1 年1～10日未満	59.2	64.3	55.4	0.0	75.0	62.5	71.4	61.1	61.9	50.0	42.9	0.0
2 年10～20日未満	15.3	14.3	16.1	0.0	25.0	12.5	14.3	5.6	14.3	26.9	0.0	0.0
3 年20～30日未満	12.2	7.1	16.1	0.0	0.0	25.0	7.1	11.1	19.0	11.5	0.0	0.0
4 年30～40日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 年40～50日未満	3.1	2.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.8	14.3	0.0
6 年50～60日未満	3.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	3.8	14.3	0.0
7 年60～70日未満	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
8 年70～80日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 年80～90日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 年90～100日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 年100日以上	5.1	4.8	5.4	0.0	0.0	0.0	7.1	11.1	0.0	3.8	14.3	0.0
無回答(行っているが頻度が無回答)	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
12 行っていない	66.9	64.5	67.8	88.9	84.0	79.5	73.2	65.6	67.9	57.3	56.1	100.0
無回答	9.6	10.7	8.8	11.1	0.0	0.0	1.8	6.3	6.2	13.5	31.6	0.0



◆ボランティア活動の内容

《問22で「1～3」を選んだ人におたずねします》 ※問22の選択肢「1.週に()回、2.月に()回、3.年に()回」
問22-2 あなたは、この1年くらいの間に、どのようなボランティア活動を行いましたか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

ボランティア活動の内容は、「環境美化・リサイクル活動」(46.9%)が最も多く、次いで、「高齢者、障害児・者等への支援」(17.3%)、「学校での活動」(16.3%)、「募金活動や災害援助活動」(14.3%)、「子どもの見守り、あいさつ活動等」(12.2%)となっています。

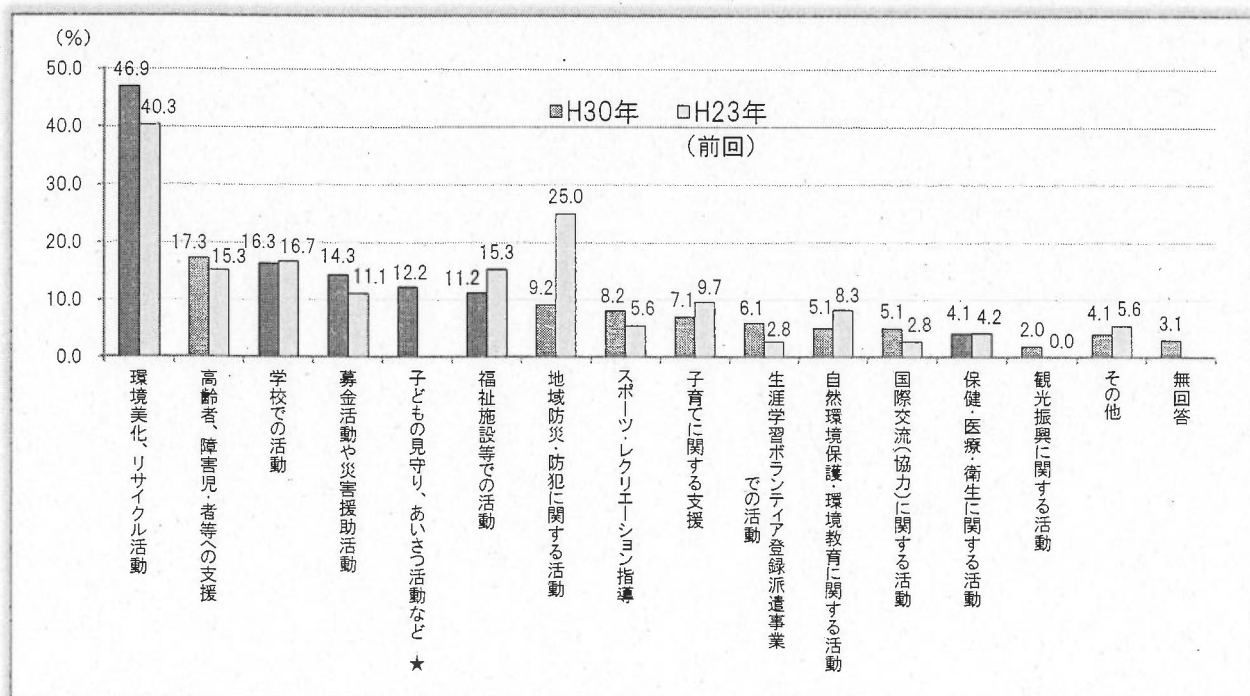
年代別に割合が最も高いものを見ると、30歳代は「子どもの見守り、あいさつ活動」となっていますが、それ以外の年代は「環境美化・リサイクル活動」となっています。なお、80歳以上は「環境美化・リサイクル活動」と「高齢者、障害児・者等への支援」が最も高くなっています。

前回と比較すると、「高齢者、障害者等への支援」「学校での活動」「募金活動」は前回同様上位5項目に入っていますが、「地域防災・防犯に関する活動」については、割合・順位ともに大きく低下しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	98人	42人	56人	0人	4人	8人	14人	18人	21人	26人	7人	0人
1 福祉施設等での活動	11.2	2.4	17.9	0.0	0.0	12.5	0.0	5.6	14.3	19.2	14.3	0.0
2 高齢者、障害児・者等への支援	17.3	11.9	21.4	0.0	25.0	25.0	7.1	11.1	14.3	19.2	42.9	0.0
3 子どもの見守り、あいさつ活動など ★	12.2	7.1	16.1	0.0	0.0	37.5	14.3	11.1	9.5	11.5	0.0	0.0
4 学校での活動	16.3	4.8	25.0	0.0	0.0	25.0	28.6	11.1	14.3	15.4	14.3	0.0
5 子育てに関する支援	7.1	9.5	5.4	0.0	0.0	0.0	7.1	5.6	9.5	11.5	0.0	0.0
6 スポーツ・レクリエーション指導	8.2	11.9	5.4	0.0	25.0	12.5	7.1	11.1	0.0	7.7	14.3	0.0
7 自然環境保護・環境教育に関する活動	5.1	0.0	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	9.5	3.8	0.0	0.0
8 環境美化(公園・道路のゴミ拾いなど)、リサイクル活動	46.9	59.5	37.5	0.0	75.0	25.0	42.9	55.6	47.6	46.2	42.9	0.0
9 募金活動や災害援助活動	14.3	16.7	12.5	0.0	0.0	12.5	28.6	11.1	9.5	19.2	0.0	0.0
10 国際交流(協力)に関する活動 (通訳、難民援助、留学生援助など)	5.1	7.1	3.6	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	9.5	3.8	0.0	0.0
11 保健・医療・衛生に関する活動 (食育、病院ボランティアなど)	4.1	2.4	5.4	0.0	25.0	0.0	7.1	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0
12 地域防災・防犯に関する活動	9.2	9.5	8.9	0.0	25.0	0.0	7.1	11.1	9.5	11.5	0.0	0.0
13 観光振興に関する活動(観光ボランティアなど)	2.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
14 生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)での活動	6.1	2.4	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	15.4	14.3	0.0
15 その他	4.1	2.4	5.4	0.0	0.0	12.5	7.1	0.0	4.8	3.8	0.0	0.0
無回答	3.1	4.8	1.8	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	4.8	3.8	0.0	0.0

※「★印」の選択肢はH23年調査時になかったもの。前回の調査では「地域防災・防犯」と「子どもの見守り」が同じ選択肢。



◆ボランティア活動を盛んにするために必要なこと

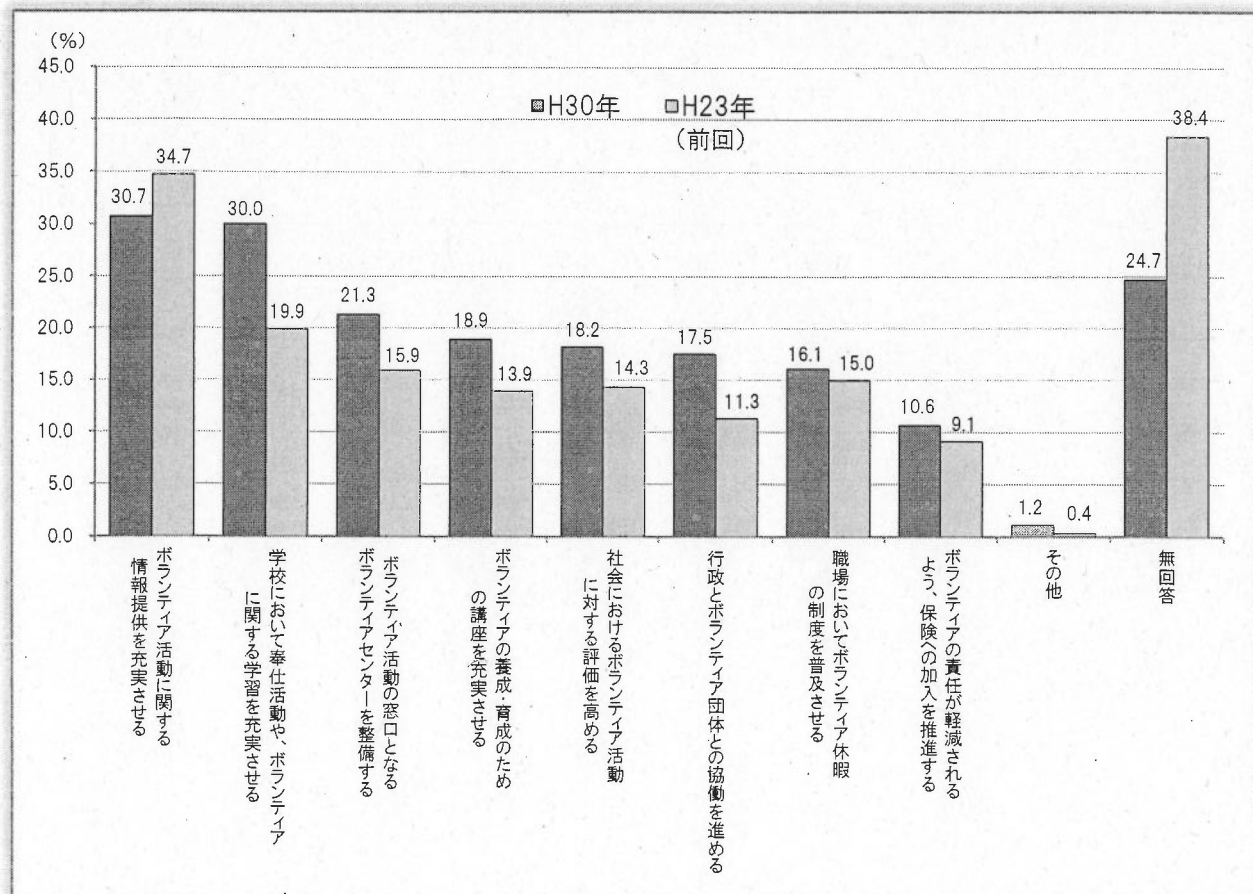
問23 ボランティア活動をもっと盛んにするために、どのような取組みが必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

ボランティア活動を盛んにするために必要な取組みは、「ボランティア活動に関する情報提供」(30.7%)が最も多く、次いで、「学校における奉仕活動や学習の充実」(30.0%)、「ボランティア活動の窓口となるボランティアセンターの整備」(21.3%)、「ボランティアの養成・育成講座の充実」(18.9%)、「社会におけるボランティア活動の評価を高める」(18.2%)となっています。なお、上位3項目は前回と同じ順位となっています。

年代別では、30歳代～50歳代(保護者の世代)は「学校における奉仕活動や学習の充実」(30歳代は「ボランティア休暇制度の普及」が同率)、30歳未満及び60歳代は「ボランティア活動に関する情報提供」(30歳未満は「ボランティア休暇制度の普及」が同率)が最も高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 学校において奉仕活動や、ボランティアに関する学習を充実させる	30.0	29.0	31.8	0.0	36.0	41.0	46.4	34.4	29.6	20.2	17.5	0.0
2 ボランティアの養成・育成のための講座を充実させる	18.9	20.7	18.0	11.1	0.0	20.5	14.3	23.4	23.5	23.6	14.0	0.0
3 ボランティア活動に関する情報提供を充実させる	30.7	27.8	33.9	0.0	44.0	23.1	25.0	29.7	43.2	28.1	26.3	0.0
4 職場においてボランティア休暇の制度を普及させる	16.1	20.7	13.4	0.0	44.0	41.0	19.6	20.3	9.9	7.9	1.8	0.0
5 社会におけるボランティア活動に対する評価を高める	18.2	18.9	18.4	0.0	20.0	23.1	30.4	25.0	17.3	13.5	5.3	0.0
6 ボランティアの責任が軽減されるよう、保険への加入を推進する	10.6	8.9	12.1	0.0	8.0	12.8	14.3	14.1	12.3	9.0	3.5	0.0
7 ボランティア活動の窓口となるボランティアセンターを整備する	21.3	21.3	22.2	0.0	36.0	15.4	28.6	21.9	24.7	19.1	12.3	0.0
8 行政とボランティア団体との協働を進める	17.5	21.3	14.6	22.2	20.0	15.4	23.2	23.4	16.0	13.5	14.0	16.7
9 その他	1.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	1.2	1.1	0.0	0.0
無回答	24.7	23.1	24.3	66.7	4.0	10.3	7.1	17.2	17.3	38.2	52.6	83.3



◆「近所づきあい」及び「つながり」の必要性

問24 あなたは、お住まいの地域で近所づきあいがありますか。また、人々や地域の“つながり”や“まとまり”は必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

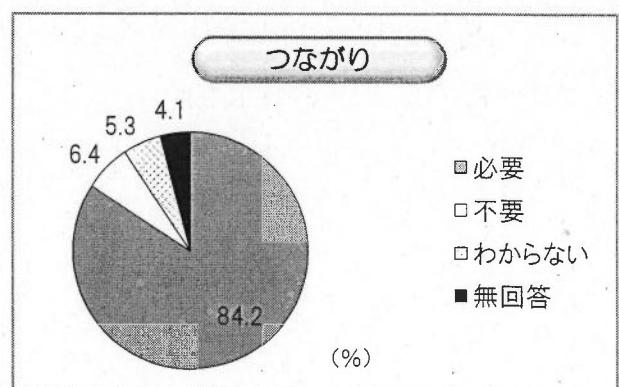
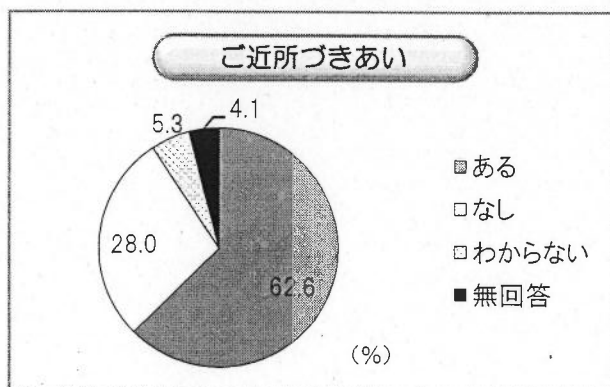
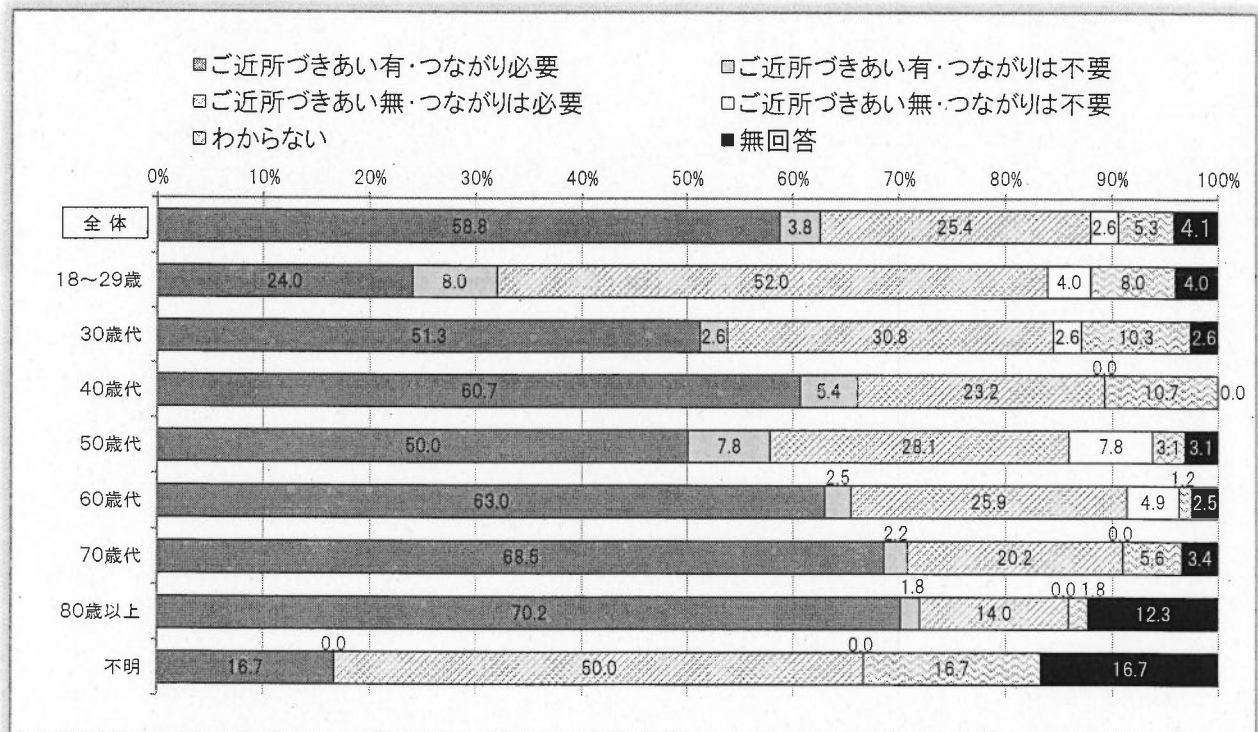
「近所づきあい」については、全体の6割以上の方が『ある』と回答しています。また、「地域の“つながり”や“まとまり”」については、全体の8割以上の方が『必要』と回答しています。また、ご近所づきあいがない人でも、9割以上(90.6%)の方がつながりは必要と回答しています。

年代別に見ると、「つながり」については、どの年代も『必要』と答えた人が約8～9割に達しています。
なお、30歳以上は、どの年代でも過半数の人が「ご近所づきあいがある」と回答しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 ご近所づきあいがあり、つながりは必要だと思う	58.8	55.0	62.8	22.2	24.0	51.3	60.7	50.0	63.0	68.5	70.2	16.7
2 ご近所づきあいはあるが、つながりは必要だと思わない	3.8	6.5	2.1	0.0	8.0	2.6	5.4	7.8	2.5	2.2	1.8	0.0
3 ご近所づきあいはないが、つながりは必要だと思う	25.4	22.5	26.8	44.4	52.0	30.8	23.2	28.1	25.9	20.2	14.0	50.0
4 ご近所づきあいはなく、つながりは必要だと思わない	2.6	4.7	1.3	0.0	4.0	2.6	0.0	7.8	4.9	0.0	0.0	0.0
5 わからない	5.3	5.9	4.6	11.1	8.0	10.3	10.7	3.1	1.2	5.6	1.8	16.7
無回答	4.1	5.3	2.5	22.2	4.0	2.6	0.0	3.1	2.5	3.4	12.3	16.7

※H23年調査時に当該設問なし



◆「つながり」が必要と思う理由

《問24で「1、3」を選んだ人におたずねします》

問24-2 あなたは、どのような理由から、地域の“つながり”が必要だと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

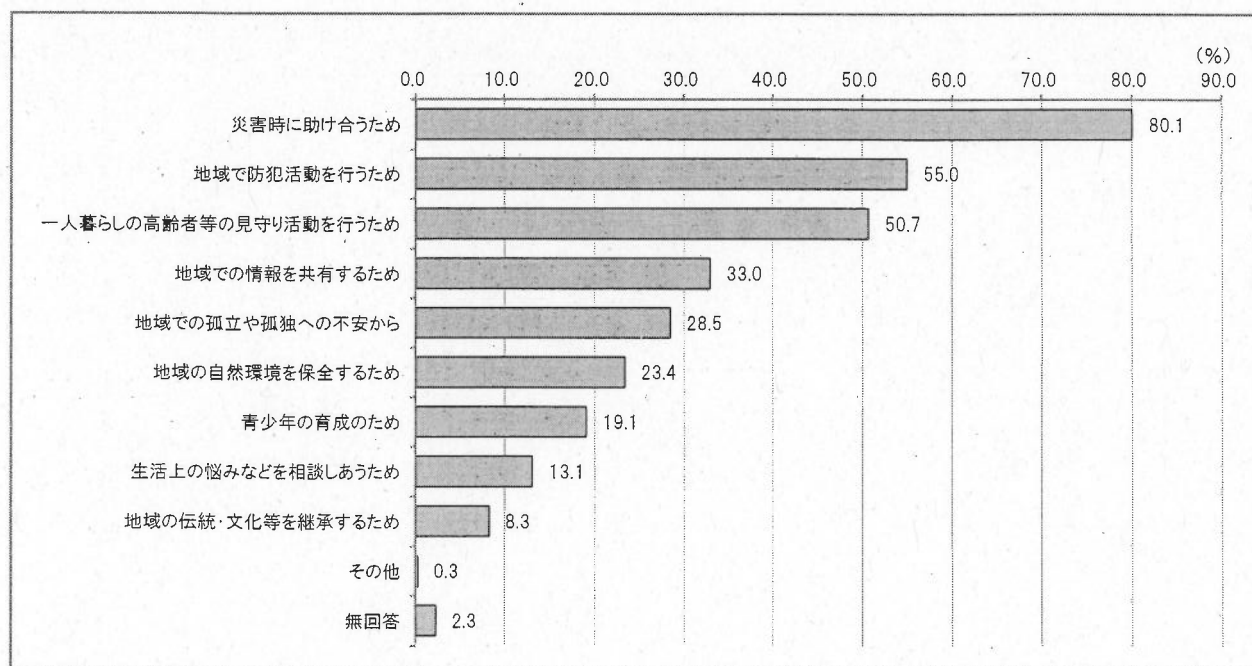
“つながり”が必要と思う理由は、「災害時の共助」(80.1%)が最も多く、次いで、「地域での防犯活動」(55.0%)、「独居老人等の見守り」(50.7%)、「地域での情報を共有」(33.0%)、「地域での孤立や孤独への不安」(28.5%)となっており、上位3項目については、割合が過半数におよんでいます。

なお、性別、年代を問わず、割合が最も高いものは、「災害時の共助」となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	351人	131人	214人	6人	19人	32人	47人	50人	72人	79人	48人	4人
1 地域の自然環境を保全するため	23.4	29.8	19.6	16.7	31.6	18.8	12.8	28.0	16.7	31.6	27.1	0.0
2 災害時に助け合うため	80.1	79.4	81.3	50.0	89.5	90.6	80.9	78.0	80.6	78.5	75.0	50.0
3 地域で防犯活動を行うため	55.0	57.3	53.7	50.0	57.9	62.5	59.6	70.0	58.3	41.8	47.9	25.0
4 一人暮らしの高齢者等の見守り活動を行うため	50.7	43.5	55.6	33.3	42.1	50.0	44.7	52.0	50.0	50.6	60.4	50.0
5 地域での孤立や孤独への不安から	28.5	20.6	33.6	16.7	21.1	34.4	25.5	26.0	31.9	27.8	29.2	25.0
6 青少年の育成のため	19.1	20.6	17.8	33.3	15.8	40.6	27.7	28.0	15.3	10.1	8.3	25.0
7 地域の伝統・文化等を継承するため	8.3	9.2	7.9	0.0	5.3	9.4	8.5	12.0	5.6	10.1	6.3	0.0
8 地域での情報を共有するため	33.0	33.6	33.2	16.7	21.1	21.9	36.2	38.0	38.9	34.2	27.1	25.0
9 生活上の悩みなどを相談しあうため	13.1	9.9	15.4	0.0	26.3	25.0	14.9	12.0	12.5	8.9	8.3	0.0
10 その他	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	2.3	1.5	2.8	0.0	0.0	3.1	0.0	2.0	0.0	3.8	6.3	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆地域団体の加入状況

問25 あなたの世帯は、町内公民館、自治会、隣組のいずれかに加入していますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

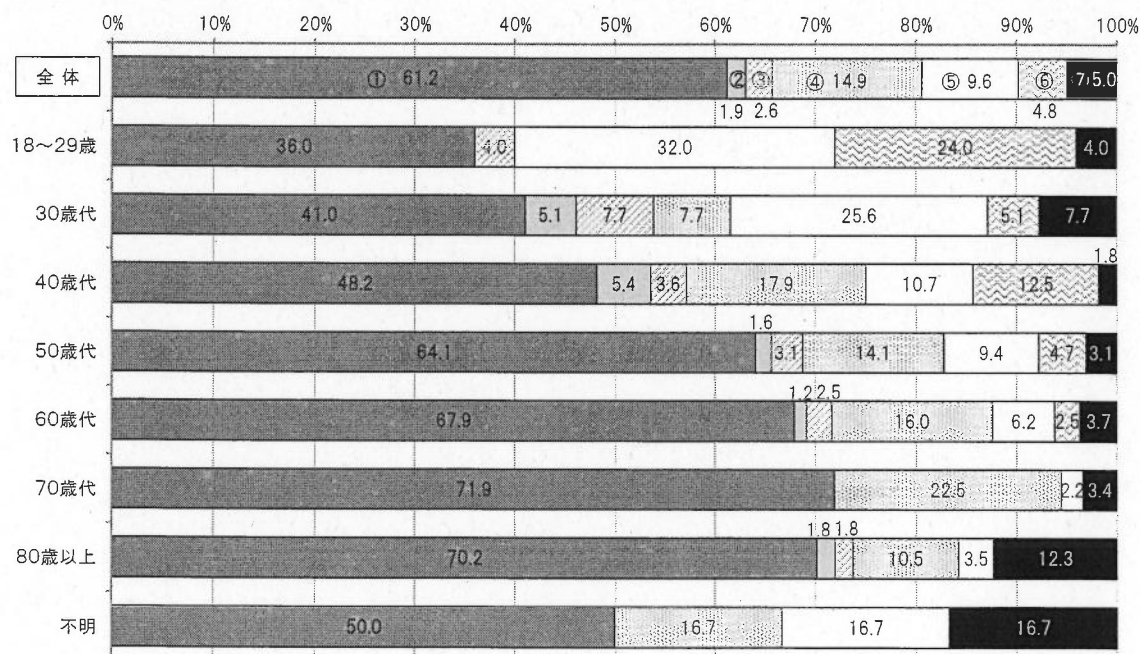
地域団体への加入状況は、全体の6割以上の方が何かしらの組織に加入していると回答しています。なお、「以前は加入していたが、現在は未加入」は14.9%、「加入したことがない」は9.6%となっています。

年代別に見ると、「加入している」は年齢が上がるほど割合が高くなり、また、「加入したことがない」は年齢が下がるほど高い割合となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 加入している	61.2	60.4	62.8	33.3	36.0	41.0	48.2	64.1	67.9	71.9	70.2	50.0
2 現在は加入していないが、加入したいと思っている	1.9	2.4	1.7	0.0	0.0	5.1	5.4	1.6	1.2	0.0	1.8	0.0
3 組織がないので加入できない	2.6	0.6	4.2	0.0	4.0	7.7	3.6	3.1	2.5	0.0	1.8	0.0
4 以前は加入していたが、現在は加入していない	14.9	14.2	14.6	33.3	0.0	7.7	17.9	14.1	16.0	22.5	10.5	16.7
5 加入したことがない	9.6	11.2	8.4	11.1	32.0	25.6	10.7	9.4	6.2	2.2	3.5	16.7
6 加入しているかどうかわからない	4.8	5.9	4.2	0.0	24.0	5.1	12.5	4.7	2.5	0.0	0.0	0.0
無回答	5.0	5.3	4.2	22.2	4.0	7.7	1.8	3.1	3.7	3.4	12.3	16.7

- ①加入している
- ②現在は未加入だが、加入したい
- ③組織がないので加入できない
- ④以前は加入していたが、現在は未加入
- ⑤加入したことがない
- ⑥加入しているかどうかわからない
- ⑦無回答



※H23年調査時に当該設問なし

◆地域活動の頻度

問26 『地域活動』についておたずねします。あなたは、この1年くらいの間に、どのくらいの頻度で『地域活動』に参加しましたか。

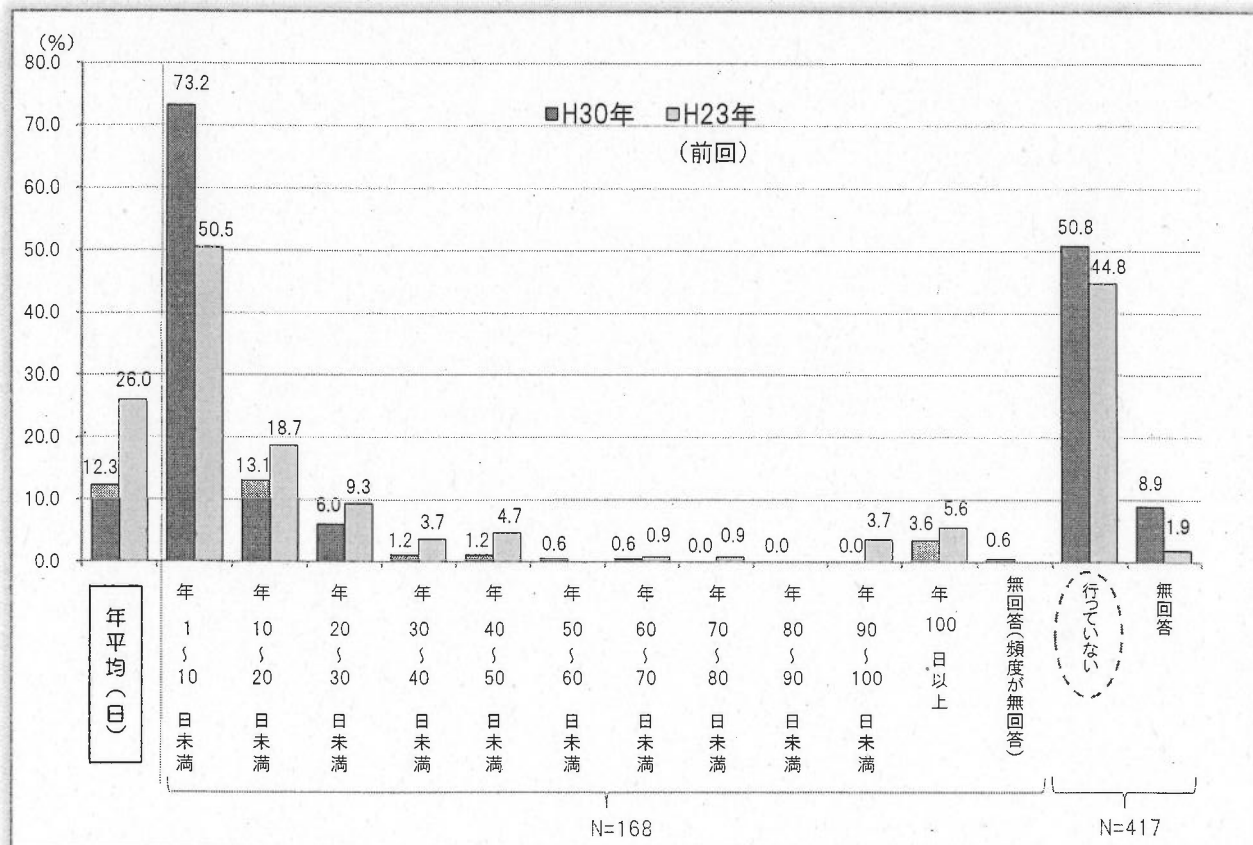
地域活動については、全体の5割以上の方が「行っていない」(50.8%)と回答しています。また、この1年くらいの間に地域活動に参加した人の頻度は、「年1～10日未満」(73.2%)が最も多く、次いで、「年10～20日未満」(13.1%)、「年20～30日未満」(6.0%)、「年100日以上」(3.6%)、「年30～40日未満」「年40～50日未満」(1.2%)となっています。

年代別に見ると、年齢が下がるほど「行っていない」割合が高く、60歳未満は過半数が「行っていない」と回答しています。

前回と比較すると、年平均の回数は約13日減少し、半減しています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サンプル数	168人	67人	98人	3人	2人	9人	17人	31人	36人	49人	22人	2人
1 年1～10日未満	73.2	76.1	70.4	100.0	100.0	66.7	82.4	83.9	72.2	69.4	59.1	100.0
2 年10～20日未満	13.1	11.9	14.3	0.0	0.0	33.3	11.8	3.2	16.7	12.2	18.2	0.0
3 年20～30日未満	6.0	4.5	7.1	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	8.3	10.2	4.5	0.0
4 年30～40日未満	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.5	0.0
5 年40～50日未満	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	4.5	0.0
6 年50～60日未満	0.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
7 年60～70日未満	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
8 年70～80日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 年80～90日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 年90～100日未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 年100日以上	3.6	3.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.8	6.1	4.5	0.0
無回答(行っているが頻度が無回答)	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
12 行っていない	50.8	50.9	50.2	66.7	88.0	66.7	64.3	51.6	49.4	33.7	36.8	66.7
無回答	8.9	9.5	8.8	0.0	4.0	10.3	5.4	0.0	6.2	11.2	24.6	0.0



◆地域活動の内容等

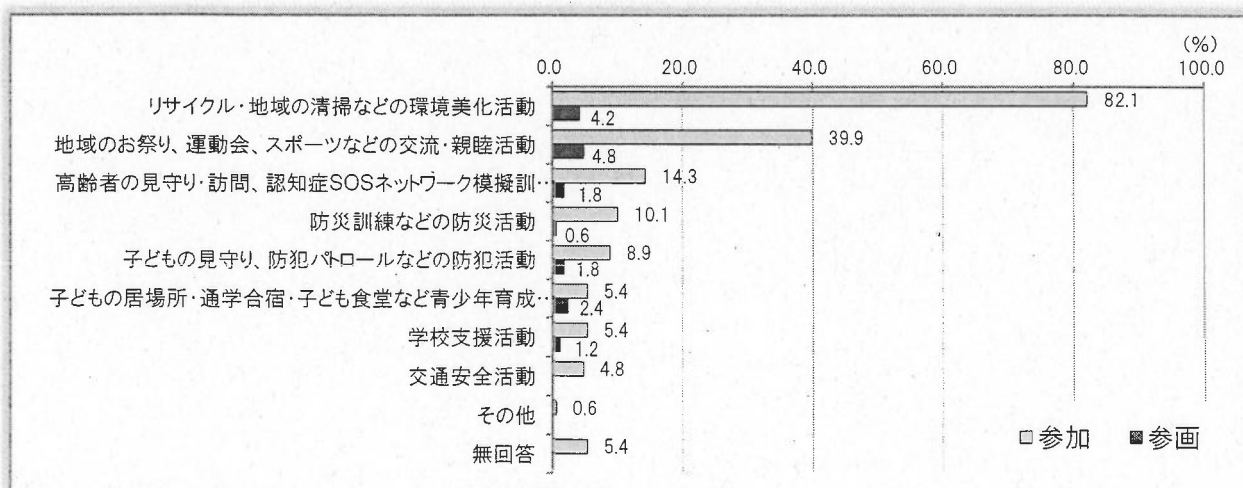
《問26で「1～3」を選んだ人におたずねします》 ※問26の選択肢「1.週に()回、2.月に()回、3.年に()回」
問26-2 あなたは、この1年くらいの間にどのような『地域活動』に参加しましたか。また、企画・立案から参加した地域活動はありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

地域活動への参加状況は、「環境美化活動」(82.1%)が最も高く、次いで、「地域のお祭り、運動会等」(39.9%)、「高齢者の見守り等」(14.3%)、「防災活動」(10.1%)、「防犯活動」(8.9%)となっています。なお、「つながり」が必要だと思う理由(問24-2)で、最も多かった「災害時の共助」と「防犯活動」は、それぞれ約1割にとどまっています。

一方、企画(企画段階から参加)については、「地域のお祭り、運動会等」が最も高くなっています。なお、30～40歳代は「地域のお祭り、運動会等」、50～60歳代は「青少年育成活動」、70歳代は「環境美化活動」など、年代によって企画段階から企画する活動が異なっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	168人	67人	98人	3人	2人	9人	17人	31人	36人	49人	22人	2人
①参加した活動												
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	82.1	85.1	81.6	33.3	50.0	77.8	82.4	93.5	83.3	81.6	72.7	50.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	14.3	13.4	14.3	33.3	0.0	0.0	11.8	9.7	11.1	24.5	13.6	0.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	8.9	9.0	9.2	0.0	0.0	0.0	23.5	3.2	11.1	10.2	4.5	0.0
4 防災訓練などの防災活動	10.1	11.9	9.2	0.0	0.0	22.2	5.9	6.5	11.1	12.2	9.1	0.0
5 交通安全活動	4.8	4.5	5.1	0.0	0.0	0.0	5.9	3.2	11.1	2.0	4.5	0.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	5.4	4.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	8.3	6.1	0.0	0.0
7 学校支援活動	5.4	6.0	5.1	0.0	0.0	11.1	11.8	0.0	2.8	10.2	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	39.9	35.8	43.9	0.0	50.0	66.7	64.7	32.3	27.8	40.8	40.9	0.0
9 その他	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
②企画した活動(企画段階から参加)												
1 リサイクル・地域の清掃などの環境美化活動	4.2	1.5	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
2 高齢者の見守り・訪問、認知症SOSネットワーク模擬訓練など	1.8	1.5	1.0	33.3	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	4.1	0.0	0.0
3 子どもの見守り、防犯パトロールなどの防犯活動	1.8	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	4.1	0.0	0.0
4 防災訓練などの防災活動	0.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
5 交通安全活動	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 子どもの居場所・通学合宿・子ども食堂など青少年育成活動	2.4	1.5	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.8	4.1	0.0	0.0
7 学校支援活動	1.2	1.5	1.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
8 地域のお祭り、運動会、スポーツなどの交流・親睦活動	4.8	6.0	4.1	0.0	0.0	11.1	5.9	0.0	0.0	12.2	0.0	0.0
9 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	5.4	4.5	5.1	33.3	0.0	0.0	5.9	0.0	2.8	6.1	13.6	50.0



※H23年調査との比較なし(選択肢が異なるため、比較が困難)

◆地域活動に参加していない理由(できない理由)

《問26で『地域活動』に「参加していない」とお答えの方におたずねします》

問26-3 あなたが『地域活動』に参加していない理由(できない理由)は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

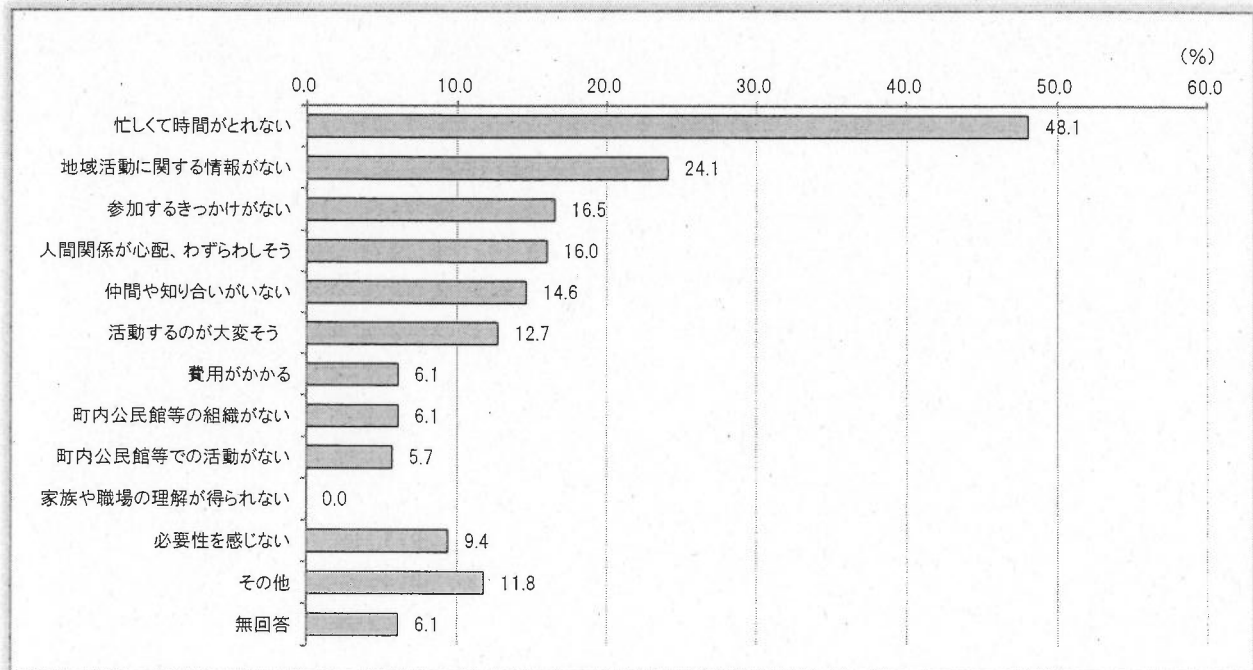
地域活動に参加していない理由(できない理由)は、「忙しくて時間がとれない」(48.1%)が最も高く、次いで、「地域活動に関する情報がない」(24.1%)、「参加するきっかけがない」(16.5%)、「人間関係が心配」(16.0%)、「仲間や知人がいない」(14.6%)となっています。

年代別に見ると、80歳以上を除き、どの年代でも「忙しくて時間がとれない」が最も高くなっています。特に、50歳代は70%以上の高い割合となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	212人	86人	120人	6人	22人	26人	36人	33人	40人	30人	21人	4人
1 人間関係が心配、わずらわしそうだから	16.0	25.6	8.3	33.3	18.2	7.7	8.3	18.2	17.5	20.0	19.0	50.0
2 活動するのが大変そうだから	12.7	9.3	14.2	33.3	18.2	19.2	11.1	12.1	12.5	10.0	0.0	50.0
3 忙しくて時間がとれない(学業、仕事、家事など)	48.1	48.8	49.2	16.7	63.6	57.7	63.9	72.7	40.0	33.3	0.0	0.0
4 どのような活動が行われているか情報がない	24.1	27.9	21.7	16.7	50.0	26.9	19.4	27.3	25.0	16.7	9.5	0.0
5 誘いがないなど、参加するきっかけがない	16.5	19.8	13.3	33.3	36.4	23.1	16.7	6.1	20.0	6.7	9.5	25.0
6 一緒に活動する仲間や知り合いがない	14.6	17.4	12.5	16.7	27.3	7.7	11.1	12.1	30.0	10.0	0.0	0.0
7 会費など活動を行うのに費用がかかる	6.1	9.3	3.3	16.7	9.1	7.7	5.6	6.1	7.5	3.3	4.8	0.0
8 住んでいる地域に、町内公民館や自治会・隣組がない	6.1	3.5	7.5	16.7	0.0	11.5	2.8	12.1	5.0	0.0	14.3	0.0
9 町内公民館や自治会・隣組の活動がない	5.7	5.8	5.0	16.7	4.5	11.5	2.8	6.1	5.0	6.7	4.8	0.0
10 家族や職場の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 必要性を感じない	9.4	11.6	7.5	16.7	18.2	7.7	5.6	18.2	5.0	6.7	9.5	0.0
12 その他	11.8	7.0	15.0	16.7	0.0	15.4	8.3	0.0	15.0	16.7	28.6	25.0
無回答	6.1	5.8	5.8	16.7	0.0	0.0	5.6	3.0	5.0	6.7	28.6	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



◆地域活動へ参加しやすくするために必要なこと

問27 お住まいの地域の活動が、もっと参加しやすいものとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

地域活動へ参加しやすくするために必要なことは、「気軽に参加できる、明るく楽しい雰囲気」(38.8%)が最も高く、次いで、「活動のPR」(30.0%)、「活動・行事を魅力的なものにする」(25.7%)、「地域活動に沿った活動」(19.2%)、「特定の人に負担がかからないようにする」(18.2%)となっています。

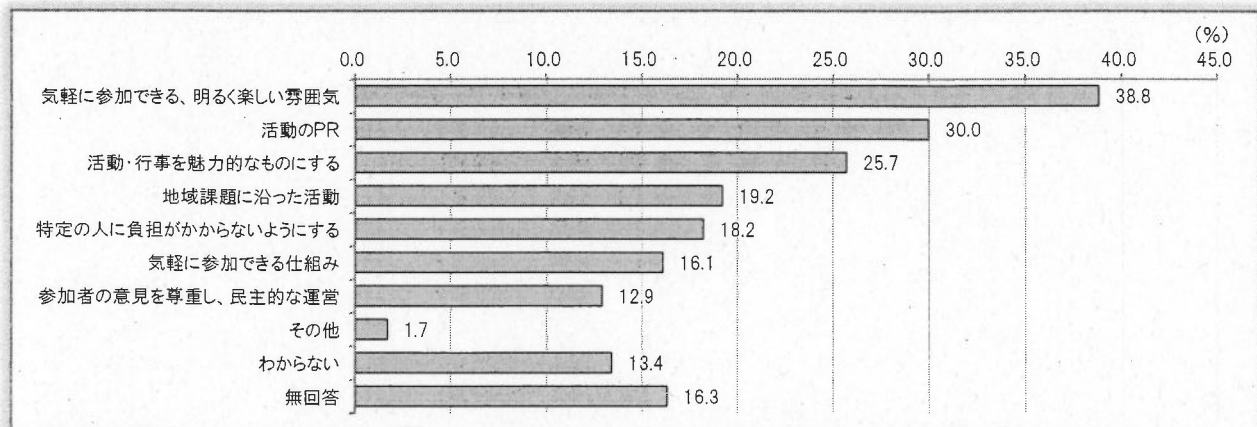
地域活動に参加していない人(できない人)(問26で「行っていない」と回答した人)の回答を見ると、上位3項目は同じで、次が「気軽に参加できる仕組み」(19.8%)となっています。

なお、「活動の企画・運営に気軽に参加できる仕組み」は、年齢が下がるほど割合が高く、特に30歳未満は他の年代と比べて高くなっています。

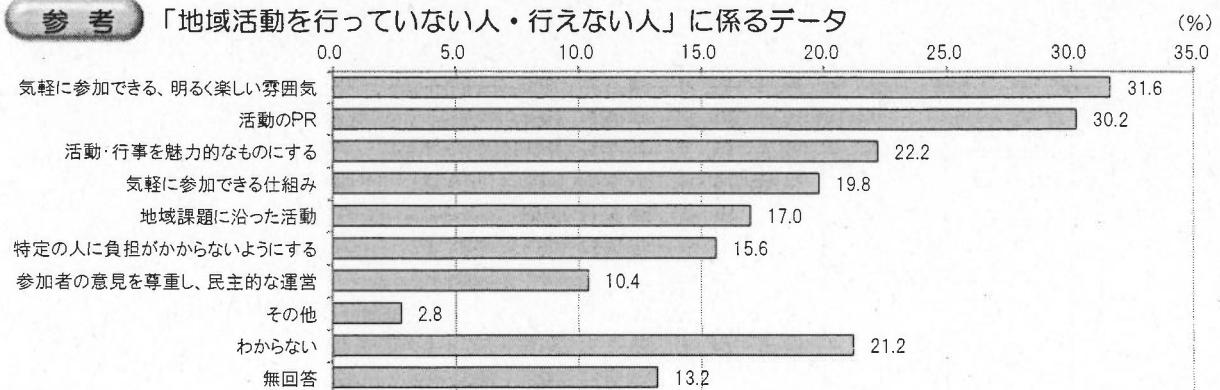
(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 活動に関する情報をもっとPRする	30.0	29.0	30.5	33.3	32.0	30.8	35.7	32.8	30.9	29.2	21.1	16.7
2 住民が求める地域課題に沿って活動する	19.2	24.3	16.3	0.0	16.0	15.4	14.3	25.0	28.4	19.1	10.5	0.0
3 活動・行事の内容を魅力的なものにする	25.7	28.4	24.7	0.0	28.0	20.5	35.7	32.8	23.5	23.6	19.3	0.0
4 活動の企画・運営に気軽に参加できる仕組みがある	16.1	15.4	17.2	0.0	40.0	25.6	21.4	17.2	16.0	7.9	7.0	0.0
5 誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気にする	38.8	36.7	41.0	22.2	44.0	38.5	39.3	37.5	37.0	41.6	38.6	16.7
6 役員やリーダーを任期制にするなど、特定の人に負担がかからないようにする	18.2	22.5	15.1	22.2	20.0	23.1	16.1	26.6	21.0	12.4	12.3	16.7
7 参加者の意見を尊重し、民主的な運営をする	12.9	18.3	9.2	11.1	20.0	17.9	10.7	10.9	11.1	9.0	21.1	0.0
8 その他	1.7	0.6	2.5	0.0	12.0	2.6	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0
9 わからない	13.4	11.2	14.6	22.2	12.0	12.8	21.4	12.5	14.8	9.0	14.0	0.0
無回答	16.3	16.6	15.9	22.2	0.0	17.9	3.6	9.4	14.8	27.0	24.6	50.0

※H23年調査時に当該設問なし



参 考 「地域活動を行っていない人・行えない人」に係るデータ



◆①地域の課題、②行政との協働が必要なこと

問28 あなたのお住まいの地域では、どのような課題がありますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。また、○印をつけたことのうち、地域だけでは解決が難しく、地域と行政が協働して取り組む必要があると思うことは、どれですか。特に必要だと思うものを3つまで○印をつけてください。

地域の課題は、「災害時の対応」(34.5%)が最も高く、次いで、「防犯・治安」(31.9%)、「高齢者・障害者への支援」(28.3%)、「住民同士の親睦・交流」(25.2%)、「地域団体の活性化」(19.7%)となっており、防災及び防犯については、どの年代においても割合が高くなっています。また、比較的年齢が下がるほど「地域の活性化、まちづくり」「子育てへの支援」「若者の地域活動への参加・参画」「交通安全」などの割合が高くなっています。

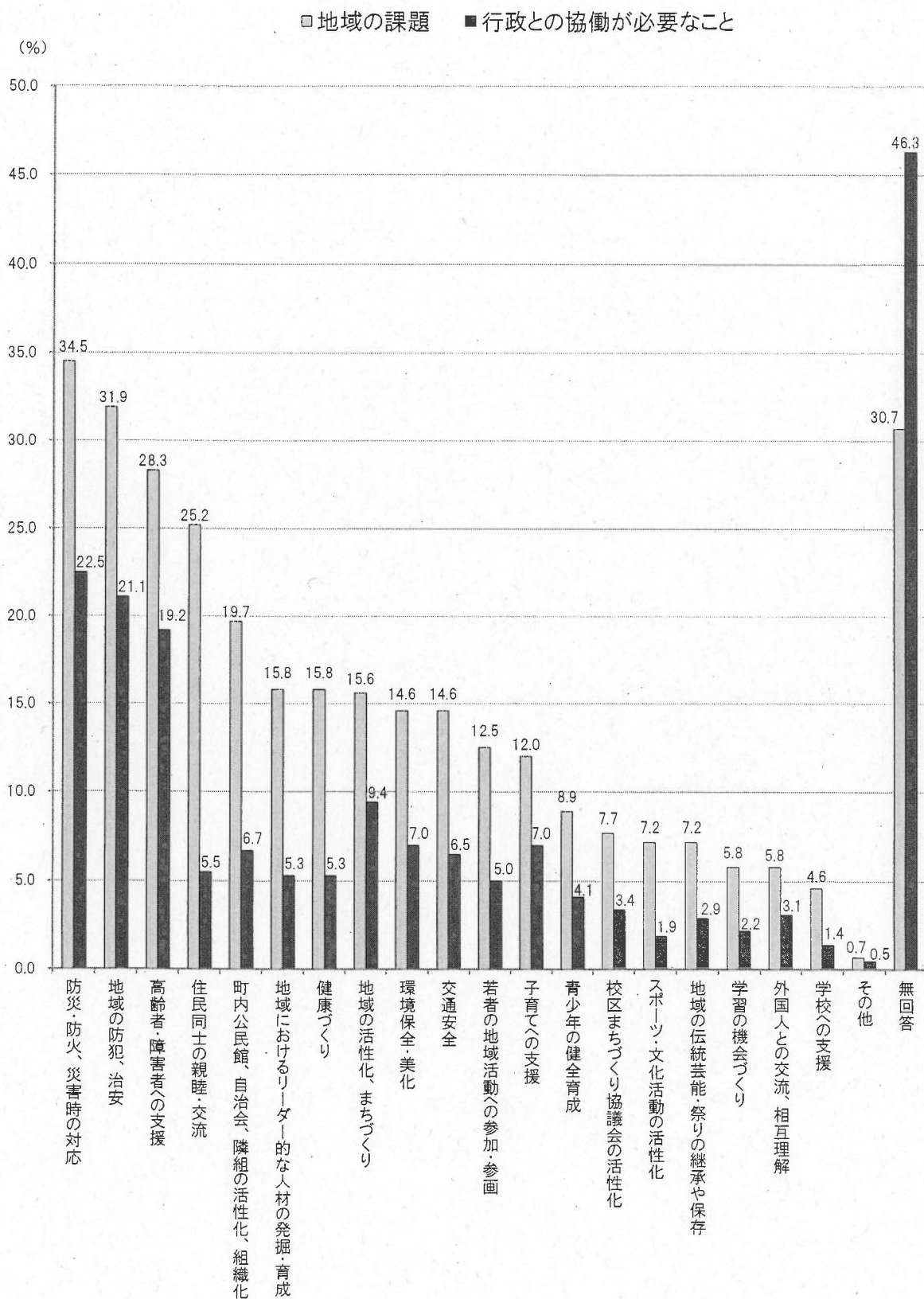
一方、地域と行政が協働で取り組む必要があるものは、「災害時の対応」(22.5%)が最も高く、次いで、「防犯・治安」(21.1%)、「高齢者・障害者への支援」(19.2%)、「地域の活性化」(9.4%)、「環境保全」「子育てへの支援」(7.0%)となっています。また、地域課題と同様に、年齢が下がるほど「子育てへの支援」「交通安全」の割合は高くなっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 〜 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
①地域の課題												
1 住民同士の親睦・交流	25.2	26.6	23.8	33.3	16.0	25.6	23.2	25.0	23.5	32.6	22.8	16.7
2 町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	19.7	17.8	21.8	0.0	16.0	28.2	17.9	15.6	22.2	18.0	22.8	0.0
3 校区まちづくり協議会の活性化	7.7	6.5	8.4	11.1	0.0	12.8	3.6	10.9	3.7	12.4	7.0	0.0
4 地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	15.8	16.0	15.9	11.1	16.0	10.3	19.6	17.2	23.5	14.6	7.0	0.0
5 環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	14.6	13.6	15.9	0.0	28.0	20.5	8.9	15.6	18.5	7.9	15.8	0.0
6 地域の活性化、まちづくり	15.6	16.0	15.9	0.0	24.0	28.2	23.2	17.2	11.1	10.1	10.5	0.0
7 地域の防犯、治安(不審者・空家対策、防犯灯など)	31.9	32.0	32.6	11.1	36.0	35.9	39.3	31.3	38.3	28.1	21.1	0.0
8 防災・防火、災害時の対応	34.5	37.3	33.1	22.2	28.0	35.9	41.1	46.9	32.1	34.8	22.8	0.0
9 交通安全	14.6	14.8	14.2	22.2	24.0	35.9	19.6	17.2	14.8	5.6	3.5	0.0
10 子育てへの支援	12.0	10.1	13.4	11.1	28.0	25.6	14.3	15.6	8.6	5.6	5.3	0.0
11 青少年の健全育成	8.9	6.5	10.5	11.1	8.0	17.9	12.5	10.9	4.9	7.9	5.3	0.0
12 学校への支援	4.6	4.1	5.0	0.0	4.0	12.8	8.9	4.7	0.0	4.5	1.8	0.0
13 若者の地域活動への参加・参画	12.5	7.7	16.3	0.0	28.0	20.5	12.5	12.5	11.1	9.0	8.8	0.0
14 高齢者・障害者への支援	28.3	27.8	28.5	33.3	32.0	25.6	32.1	43.8	19.8	24.7	26.3	16.7
15 健康づくり	15.8	14.8	16.7	11.1	12.0	15.4	7.1	21.9	14.8	13.5	24.6	16.7
16 学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	5.8	7.7	4.6	0.0	8.0	10.3	5.4	9.4	6.2	3.4	1.8	0.0
17 スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	7.2	8.3	6.7	0.0	24.0	10.3	10.7	9.4	4.9	3.4	1.8	0.0
18 地域の伝統芸能、祭りの継承や保存	7.2	5.3	8.8	0.0	12.0	10.3	8.9	6.3	6.2	4.5	8.8	0.0
19 外国人との交流、相互理解	5.8	4.7	6.7	0.0	24.0	15.4	10.7	6.3	0.0	1.1	1.8	0.0
20 その他	0.7	0.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	1.1	0.0	0.0
無回答	30.7	29.0	30.5	66.7	20.0	23.1	25.0	20.3	27.2	39.3	43.9	83.3
②行政との協働が必要なこと												
1 住民同士の親睦・交流	5.5	7.7	3.3	22.2	0.0	2.6	7.1	6.3	4.9	5.6	7.0	16.7
2 町内公民館、自治会、隣組の活性化、組織化	6.7	8.3	5.9	0.0	4.0	2.6	5.4	4.7	11.1	7.9	7.0	0.0
3 校区まちづくり協議会の活性化	3.4	3.0	3.8	0.0	0.0	2.6	1.8	1.6	2.5	7.9	3.5	0.0
4 地域におけるリーダー的な人材の発掘・育成	5.3	5.3	5.4	0.0	0.0	2.6	5.4	4.7	9.9	5.6	3.5	0.0
5 環境保全・美化(花いっぱい運動、ごみ拾いなど)	7.0	4.7	8.8	0.0	12.0	10.3	3.6	4.7	11.1	2.2	10.5	0.0
6 地域の活性化、まちづくり	9.4	11.2	8.4	0.0	12.0	10.3	14.3	9.4	7.4	10.1	5.3	0.0
7 地域の防犯、治安(不審者・空家対策、防犯灯など)	21.1	22.5	20.9	0.0	24.0	23.1	28.6	20.3	27.2	15.7	14.0	0.0
8 防災・防火、災害時の対応	22.5	25.4	21.3	0.0	20.0	23.1	25.0	35.9	21.0	22.5	10.5	0.0
9 交通安全	6.5	8.3	5.0	11.1	16.0	15.4	7.1	4.7	8.6	2.2	1.8	0.0
10 子育てへの支援	7.0	6.5	7.5	0.0	24.0	17.9	12.5	7.8	1.2	3.4	0.0	0.0
11 青少年の健全育成	4.1	4.1	4.2	0.0	4.0	5.1	8.9	0.0	2.5	6.7	1.8	0.0
12 学校への支援	1.4	1.8	1.3	0.0	0.0	5.1	5.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
13 若者の地域活動への参加・参画	5.0	2.4	7.1	0.0	8.0	12.8	5.4	3.1	6.2	2.2	3.5	0.0
14 高齢者・障害者への支援	19.2	19.5	18.8	22.2	28.0	15.4	17.9	29.7	13.6	15.7	21.1	16.7
15 健康づくり	5.3	4.7	5.4	11.1	0.0	2.6	3.6	6.3	7.4	5.6	5.3	16.7
16 学習の機会づくり(生活問題や制度、法律等)	2.2	3.0	1.7	0.0	4.0	0.0	3.6	0.0	6.2	1.1	0.0	0.0
17 スポーツ・文化活動の活性化(運動会や文化祭など)	1.9	3.0	1.3	0.0	8.0	0.0	1.8	1.6	2.5	1.1	1.8	0.0
18 地域の伝統芸能、祭りの継承や保存	2.9	1.8	3.8	0.0	8.0	5.1	3.6	3.1	1.2	1.1	3.5	0.0
19 外国人との交流、相互理解	3.1	2.4	3.8	0.0	16.0	5.1	8.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0
20 その他	0.5	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0
無回答	46.3	43.8	46.9	77.8	36.0	30.8	37.5	39.1	38.3	60.7	63.2	83.3

※H23年調査時に当該設問なし。

※「②行政との協働が必要なこと」のN値は、便宜的に「①地域の課題」と同じ417人(回答者の総数)。



※「行政との協働が必要なこと」のN値は、便宜的に「地域課題」と同じ417人(回答者の総数)。

◆学校を支援する取組みへの参加意向

問29 最後に、おたずねします。少子・高齢化が進む中で、学校は人と人をつなぎ、さまざまな課題へ対応し、まちづくりの拠点としての役割を果たすことが求められています。こうした観点から、例えば、地域の住民が登下校時の子どもの見守りを行ったり、子ども達が地域の文化活動に参加したりするなど、学校と地域が連携・協働し、地域の未来を担う子ども達の成長を支える必要性が高まっています。あなたは、お住まいの地域にある学校を支援する活動に参加したいと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

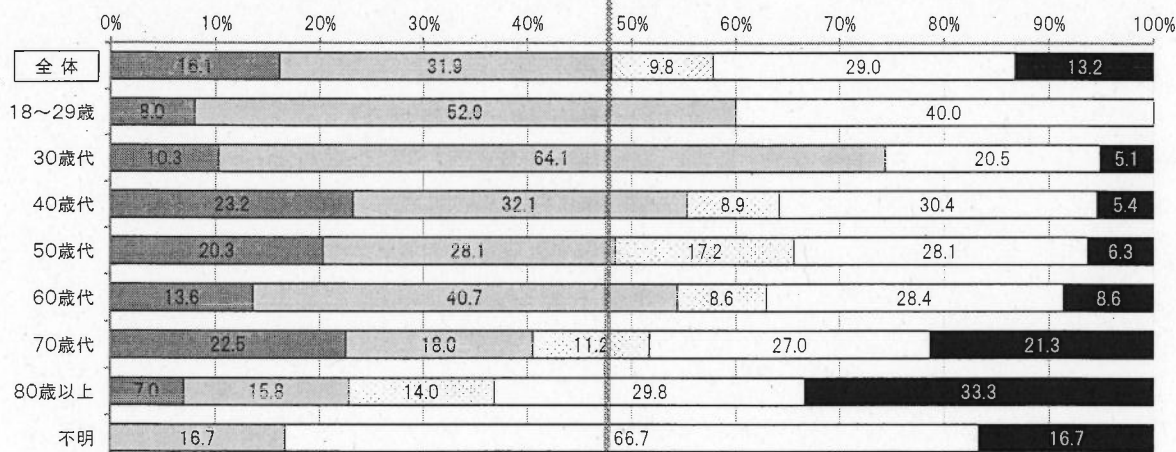
“学校”を支援する活動に参加したいと回答した人は、「参加したことがあり、今後も参加したい」(16.1%)と「参加したことはないが、参加したい」(31.9%)と合わせると、全体の約半数(48.0%)におよんでいます。また、地域活動に参加していない人(できない人)(問26で「行っていない」と回答した人)でも、4割以上(43.9%)が「参加したい」と回答しています。特に、地域活動をあまり行っていない若い年代(18歳～39歳)の参加意欲は、他の年代を上回っています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	417人	169人	239人	9人	25人	39人	56人	64人	81人	89人	57人	6人
1 参加したことがあり、今後も参加したい	16.1	12.4	19.2	0.0	8.0	10.3	23.2	20.3	13.6	22.5	7.0	0.0
2 参加したことはないが、参加したい	31.9	27.8	35.1	22.2	52.0	64.1	32.1	28.1	40.7	18.0	15.8	16.7
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	9.8	11.2	8.8	11.1	0.0	0.0	8.9	17.2	8.6	11.2	14.0	0.0
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	29.0	33.1	25.1	55.6	40.0	20.5	30.4	28.1	28.4	27.0	29.8	66.7
無回答	13.2	15.4	11.7	11.1	0.0	5.1	5.4	6.3	8.6	21.3	33.3	16.7

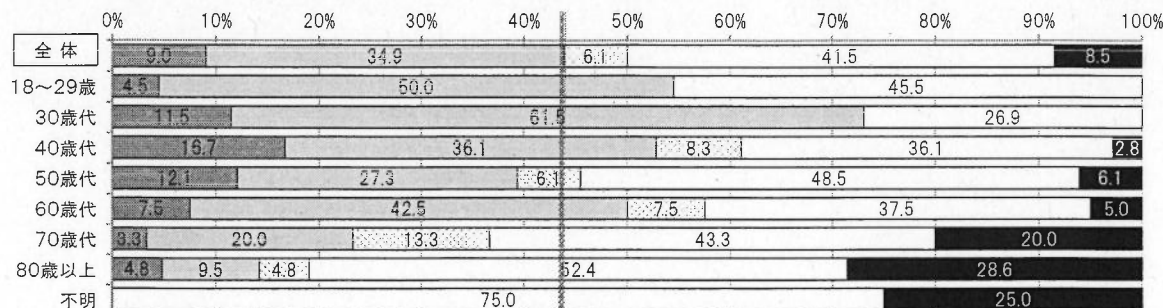
※H23年調査時に当該設問なし

■経験有・参加したい □経験無・参加したい □経験有・参加したくない □経験無・参加したくない ■無回答



参考 「地域活動を行っていない人・行えない人」に係るデータ

■経験有・参加したい □経験無・参加したい □経験有・参加したくない □経験無・参加したくない ■無回答



◆学校を支援する活動に参加してくてもできない人の障害

《問29で「2. 参加したことはないが、参加したい」を選んだ人におたずねします》

問29-2 あなたは、どのような状況なら参加することができますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

学校を支援する活動に参加したくてもできない人が、参加するために必要なことは、「時間的な余裕」(67.7%)が最も高く、次いで、「無理なく参加できそうなもの」(60.2%)、「早目に情報を知る」(31.6%)、「子どもや地域づくりに大変有効と思うもの」(27.1%)、「知人・友人からの誘い」(18.8%)となっています。

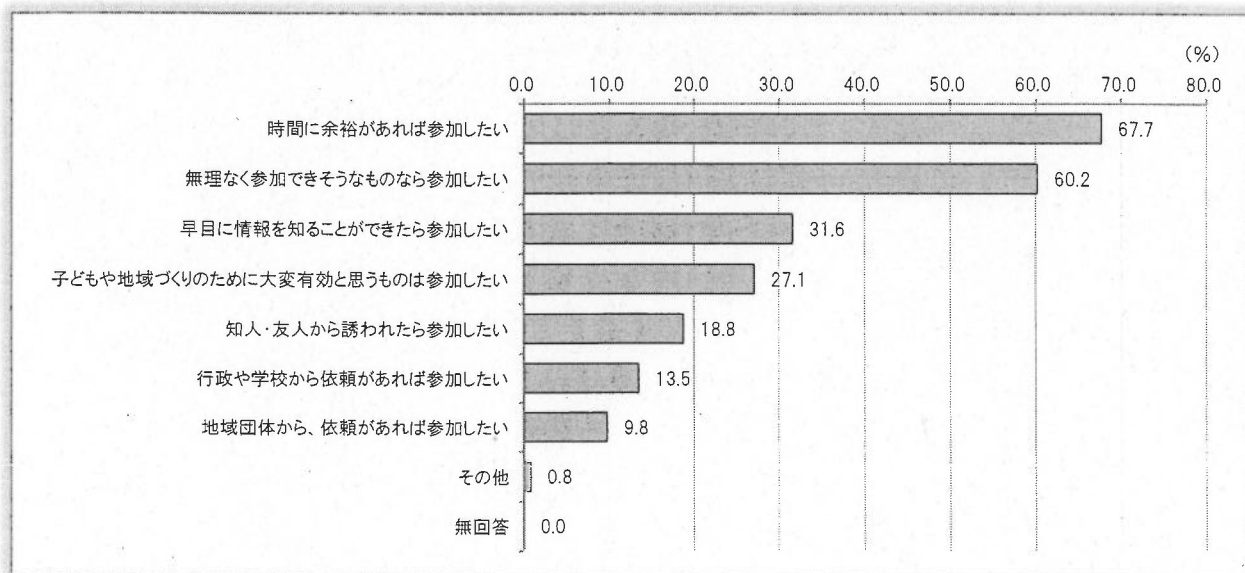
年代別では、60歳未満は「時間的な余裕」、60歳以上は「無理なく参加できそうなもの」が最も高くなっています。

なお、30歳代(問29で「参加したことはないが、参加したい」と回答した割合が最も高い年代)については、「時間的な余裕」、「無理なく参加できそうなもの」に次いで、「子どもや地域づくりに大変有効と思うもの」(40.0%)の割合が高く、他の年代と比べて高い数値となっています。

(単位:%)

	全 体	男 性	女 性	無 回 答 等	18 ～ 29 歳	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以 上	不 明
サ ン プ ル 数	133人	47人	84人	2人	13人	25人	18人	18人	33人	16人	9人	1人
1 時間に余裕があれば参加したい	67.7	63.8	71.4	0.0	84.6	84.0	83.3	83.3	66.7	25.0	22.2	0.0
2 早目に情報(日時、場所、内容等)を知ることができたら参加したい	31.6	36.2	29.8	0.0	30.8	28.0	27.8	38.9	36.4	31.3	22.2	0.0
3 知人・友人から誘われたら参加したい	18.8	14.9	20.2	50.0	23.1	28.0	11.1	27.8	15.2	12.5	11.1	0.0
4 行政や学校から依頼があれば参加したい	13.5	25.5	7.1	0.0	15.4	12.0	5.6	27.8	6.1	25.0	11.1	0.0
5 地域団体(まちづくり協議会、町内公民館、校区社協、校区民児協・主任児童委員など)から、依頼があれば参加したい	9.8	12.8	8.3	0.0	7.7	0.0	0.0	27.8	3.0	18.8	33.3	0.0
6 子どもや地域づくりに大変有効と思うものは参加したい	27.1	29.8	25.0	50.0	30.8	40.0	22.2	27.8	27.3	25.0	0.0	0.0
7 無理なく参加できそうなものなら参加したい	60.2	55.3	61.9	100.0	76.9	52.0	33.3	44.4	75.8	75.0	55.6	100.0
8 その他	0.8	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※H23年調査時に当該設問なし



(4) 自由記述

問 30 今回、おたずねした生涯学習や地域づくりについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

●子どもに関すること

30代・女性	以前、子どもの登校を見守っていた時近所の方に会い子どもが「おはようございます」と挨拶をしたが、挨拶がなかったので聞こえなかったかと思ったが、何度か続き故意的に挨拶してないと認識した。大人の私でも無視されたら挨拶しづらいと思う。挨拶した後の子どもの悲しそうな顔が忘れられない。その人の事情はわからないが、子どもたちが元気に過ごせる、育つ町を希望する。
40代・男性	高齢化が進む中、生涯学習も大切ですが、少子化の事を考えて対策をして地域を活性化して欲しい。
50代・男性	若い人の常識と社会公共性が失われ個人主義で自分勝手な人が多くなって来た。今後も少子化のため益々この傾向が進まないか？
60代・女性	小学生の子どもたちの登下校時に見守りを続けて行って欲しい。
70代・男性	近所は後期高齢者ばかり。独身者、子育て中の若者世代を中核にして地域を活性化し生涯学習もその世代に税金を使うと良いと思う。
70代・女性	高齢の人と若い人の考え方に開きがあり、しっかりいってない点が最近多いように思われます。

●高齢者に関すること

80歳以上・女性	高齢者向けの講座を企画してほしい。あまり難しくない、楽しめるものを。例えばみんなで歌うとか自由にいつでも参加することができたらよいと思う。
----------	---

●地域に関すること

10代・女性	リサイクル当番を廃止して欲しい。仕事をしている人は休んで当番をしなければならない。独居老人は特別扱いしないでよい。なのに早朝よりウォーキングしている。不平等ではないか。燃えるゴミのように回収車でリサイクルゴミも袋を有料化すれば市民は平等となる。家庭でのリサイクルゴミが何を出しているのか当番の人に知られるため、個人情報はないと思います。若い世代は住みにくい大牟田市です。まわりは空家と老人ばかり。子どもを見かけません。
60代・女性	地域で不明な事があれば問い合わせ窓口があれば有り難いです。
60代・男性	地域づくりの中の一つの例としてマスコミ等で子ども食堂の事が取り上げられますが、貧困対策や格差をなくす取組がきちんとしていれば子ども食堂は必要ないと思います。大牟田に子ども食堂が必要ない様な対策を、国への働きかけを含めてお願いします。
60代・女性	地域が潤う為、役員（公民館、福祉委員、民生委員、その他）の参加者が多いが、一般の住民が少ない。何か考えているが……。寄り添う何か良い案が無いでしょうか。いつも決まった人達だけです。
70代・男性	校区内だけでなく校区外対抗での催し、スポーツ、イベント、ポイント貯めたらメリットがあるなど。地域の役員やお手伝いも年齢別にしてもっと参加してもらおう。正直、公

	民館へ入るのも任意であるため、誰がどこに住んでいるとか隣の人が誰なのかわからない。若者が大牟田から出ても帰って来たいような市作りが大切！
70代・女性	活動のリーダーとボスは異なる。個人への批判、陰口の無い様に願います。
70代・女性	小学校の再編により、地域コミュニティも合併しましたが、それによって今までずっと地域に出てきていた高齢の方々が参加しづらくなり、運動会やグランドゴルフ、その他、見えなくなった方がたくさんいらっしゃいます。再編により地域の再編には、大きな課題があると思います。実態を把握し、検討していただきたいです。地域で独立する人が少しでも少なくなる事を願っています。

●つながりに関すること

30代・女性	昔に比べ、人と人のつながりが携帯やSNSの普及で便利になった分、少なくなっていると思う。人と人のつながりが強くなると、子どもから高齢の方までがもっと住みやすい世の中になるのではないかと思います。
60代・性別不明	3年前に引っ越してきたので地域との繋がりがほとんどなく、学校との繋がりを持つと思うまでには至っていません。もしこの地域に孫がいて学校に通っていれば、是非参加したいと思っていたかもしれません。今は自分のための活動をしたいと考えています。もう少し年を重ねたら地域に関心が持てるかもしれません。

●文化に関すること

50代・女性	クラシックや伝統芸能も必要だと思いますが、ゴスペルやジャズ等もっと幅広い分野があればと思います。荒尾は音楽やダンス、その他のカルチャーセンターが充実しているように感じます。大牟田は高齢者向けは多いですが、参加したいと思える内容が今の所あまり無いという印象です。沖縄の三線、津軽三味線等面白いと思います。
--------	---

●安心安全に関すること

30代・女性	この地に根深く残る暴力団がらみの問題がゼロになる様よろしくをお願いします。
70代・男性	昨年の正月早々、高齢者が道路横断中に事故に遭い死亡する事故が続いて起こり警察署長の名で「非常事態宣言」がなされて安心安全に関する特別指導があったにも関わらず、この方面の地域まちづくり活動があまり活動的に実施されていないようだ。本年度中に高齢者の道路横断中の交通安全指導と二セ電話詐欺に関する防犯指導のセミナーを実施したい。

●交通に関すること

70代・女性	車や自転車に乗れないのでそこまで行けない。タクシーの利用も費用がかかりすぎて無理。
70代・女性	一人になって間17のように友達もたくさんできました。ただバスの回数やお店が近くにあればもっといいです。
70代・女性	交通の便が悪くて思うように参加することが難しい。

●環境美化に関すること

30代・男性	前記したが、とにかく公園が汚い。人が集まりふれあう場でもある公園がこれでは街は活気づくわけがない。業務委託している業者をしっかりと監督しているとは思えない。本当に延命公園などは人さらいが起きそうな暗いムードがある。枝や草が生い茂って見晴らしも悪すぎる。市職員は何をしているのかと腹立たしくなっています。
--------	---

●行政に対する要望・意見に関すること	
40代・女性	国際交流、文化財的なもの、健康などバラバラに行うのではなく「大牟田市は〇〇を押し進める」などして一つのものに特化した町にする。例えば長野県だったかの平均寿命を町全体で延ばす活動の取り組みのように。
50代・女性	働いているためなかなか情報が入ってこない。
60代・男性	大牟田市の発展、魅力を若い人に伝える活動、及び行政の支援を受けるための手続きなど市として積極的に取り組んでもらいたい。
60代・男性	人生日々是好日。生涯学習の基本。行政はそういう社会の仕組み作りをすべき。予算も措置すべき。
70代・男性	大牟田市は特に少子高齢化の先進国です。年々人口も減少して人口が近い将来は8万人で落ち着くのでは？と聞いています。街も小さくなり人口も減少します。将来を見据えて行政の合理化等健全な街づくりを！

●自身の体調面に関すること	
60代・男性	現在持病の（腰痛）と（PM2.5）の咳に悩まされ体力に自信がなく、今後体調次第でボランティア活動に積極的に参加したいと思っております。
60代・女性	家にこもり気味で体力、気力、筋力など衰えていくのを体のためにも防がなくてはと思う日々だが、身体を動かしていくのが一番だろうと思っている。
60代・女性	私の校区は高齢の人が多く、昔から住んでいる方々が多い。仕事を退社し、現在孫の世話に追われている。そのためまだまだ活動に参加するまでにいたっておらず。しかし、時間を見つけ友人と共に洋裁をしている。その事ぐらいしかできないのが現状です。
70代・男性	S15.4生まれ良い年になりました、暑い日が続きます。もうのんびりがいいかも
70代・女性	体や足が良くない為参加できない。月に一回はボランティアかな、弁当作ってやったりしてます。50人分作る為に献立を考えたりしてます。ボケないように頑張ってます。
80歳以上・男性	参加の意志、又は参加できる方でないと。年齢的、体力的に参加できないので記入できませんでした。
80歳以上・女性	高齢者のため充分なことができない。もう少し元気があればと思う。
80歳以上・女性	90才なので若い人にお願いしたい。
80歳以上・女性	気持ちは↑ですが体力が↓です。
80歳以上・女性	今、外科に入院しています。気持ちがついていきません。子育ての頃、PTA活動、選挙の時の協力、色々な面で社会参加すれば社会は明るく元気になるものです。少子化、高齢化社会ではアイデアは浮かびません。S30、40年頃は職場が色々なサークルに援助してくれました。

●アンケートに関すること	
20代・男性	アンケートを記入するというのが今の若者では苦になる人も多いかもしれないので、携帯やスマートフォンでできるアンケートを取るともっと多くの意見が集まるのでは？
40代・男性	生涯学習が何なのかよく知らないので答えに悩んだ。例えなどがあればもう少し分かりやすいと思う。
40代・女性	ちょっと長すぎます。
50代・男性	質問が多すぎる。
60代・男性	国家百年の計という言葉通り、長い時間を必要とすると思いますが、コツコツと推進される様頑張っていただきたい。必ずや我々市民もそれにこたえることができると思いま

	す。今回のアンケートに際しても自分自身やボランティア、引いては社会貢献、地域貢献に対する姿勢を一考させられる機会をいただきました。
80 歳以上・男性	色々努力されてあることは分かりました。個人としての気持ちは年齢、体力、健康上、生活、仕事の有無など又、個人の考え方の違いがあり、お世話や計画される方は大変だろうなあと思っています。このアンケートへの返信をだいぶためらいましたが、先日、ハガキまでいただき現在の気持ちで記入しました。支離滅裂な答えとなりましたがお許しください。
80 歳以上・女性	親は一人暮らしで目が不自由で足もフラフラでよければもう資料は届けないでください!!
80 歳以上・女性	96 才になります。高齢のため何も出来ません。アンケートを送るのも大変です。
80 歳以上・女性	私はすぐ 92 歳になります。かけない所がいっぱいあります。本当にすみません。

●その他	
40 代・女性	自分自身が高齢になった時の不安があります。そのための支援は色々と考えて欲しいです。
50 代・男性	地域、学校のための支援をしたい気持ちはあるが、自分の仕事が時間的にも精神的にもオーバーワークで余裕がないのが現状である。この状況で地域づくりに支援となるとどうしても参加できないか、参加しても十分なことはできない。働きざかりの年代については同じ状況ではないだろうか。
50 代・男性	世の中の時代の流れかと思う。この先未来は不安だろうと思う。
60 代・女性	色々なことを学びたい人がたくさんおられるのでいいと思います。
60 代・女性	生涯仕事をし(収入も必要な)のでその中からそれを通して考えていければと思います。若い人達の年金問題もある。(全ての人にも)
60 代・性別不明	科学、勉強が必要
80 歳以上・女性	施設入所中の為意見、要望等はなしです。

※原則、記載された原文のまま掲載しています。

3. 市民意識調査から見えてくるもの

(1) 生涯学習をQOL（生活の質）を高める手段と考えている市民が多い

生涯学習についての考えやイメージは、「生きがい・人生を豊かにする」(51.6%)が最も高い回答となりました。生涯学習の目的や理由も、「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」(50.2%)が最も高く、市民は生涯学習をQOL（生活の質）を高める手段と考えていることが推測できます。

(2) 「生涯学習を行っていない人（行えない人）」が多いが意識は高い

生涯学習については、この1年の間に行った生涯学習は「特にしていない」(46.8%)が最も高くなっています。その理由としては、「仕事」(38.5%)が最も高く、次いで「家事・育児・介護等」(20.5%)となっています。一方、生涯学習の必要性は、全体の約9割が必要と回答しており、何かしら学ぶ意欲は高いといえます。

(3) 公共施設（社会教育施設）の講座・教室の充実が求められている

これまで生涯学習をしたことがある場所・形態は、「公共施設の講座・教室」(49.8%)が最も高くなっています。また、今後希望する場所・形態についても同項目(48.4%)が最も高くなっています。さらに、生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきことにおいては、同項目(22.1%)が3番目に高くなっています。

以上のことから、市民は、公共施設（社会教育施設）の講座・教室に大きな期待を寄せており、その充実が求められていることがわかります。

(4) 生涯学習、ボランティア活動、地域活動を盛んにするには情報提供の充実が求められている

生涯学習をしない理由（できない理由）は、「仕事」(38.5%)が最も高く、次いで「家事・育児・介護等」(20.5%)、「どのような活動があるかわからない」(18.5%)、「生涯学習に関する情報が不足している」(17.9%)となっています。また、生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこととして、「詳細な学習情報の提供」(21.1%)が4番目に高くなっています。

一方、ボランティア活動を盛んにするために必要なことは「ボランティア活動に関する情報提供を充実させる」(30.7%)が最も高くなっています。また、地域活動に参加していない理由（できない理由）は、「忙しくて時間がとれない」(48.1%)が最も高く、次いで「地域活動に関する情報がない」(24.1%)、「参加するきっかけがない」(16.5%)となっています。

以上のことから、生涯学習、ボランティア活動、地域活動を盛んにするためには、学習活動に関する情報提供をより一層充実させることが必要です。

(5) 各種講座・事業は、対象となる年代によって開催日時を設定することが効果的

生涯学習を行うのに都合の良い時間帯は、60歳未満では、どの年代でも平日の夜間が最も高くなっています。また、60歳代以上では、平日の午前・午後が最も高くなっています。

以上のことから、公共施設での講座・事業は、対象となる年代によって開催日時を設定することが効果的と考えられます。

(6) “家庭教育の支援、青少年教育”の充実が求められている

生涯学習が盛んなまちにするために行政が力を入れるべきこととして、「次世代を担う若者への教育の充実」(28.3%)が2番目に高くなっています。また、少子・高齢化社会における教育行政の在り方として、「家庭教育の支援」(52.8%)が最も高く、次いで「少年教育」(36.9%)

となっており、「青年教育」(24.9%)が4番目に高くなっています。

以上のことから、家庭教育の支援・青少年教育の充実が求められていると考えられます。

(7) 学んだ成果を活かすために身近な活動の場や機会の創出が求められている

全体の約6割の人が、自分の知識・技能を地域活動やボランティア活動に活かしたいと考えていることがわかりました。中でも、「機会があれば活かしたい」と回答した人の割合は、46.5%と最も高くなっています。

学んだ成果を活かすために必要なことは、「活動の場が身近にある」(35.5%)が2番目に高く、行政として取組むことができる項目の中では最も高くなっています。

以上のことから、地区公民館が実施している“市民の身近な場所で行う事業”を充実させ、学習活動の場・機会を創出することが必要です。

(8) ボランティア活動や地域活動を行っている人の割合が低くなっている

ボランティア活動を行っていない人の割合が66.9%(前回より10.4ポイント増加)、地域活動に参加していない人の割合は50.8%(前回より6ポイント増加)となっています。また、活動の頻度は、ボランティア活動・地域活動ともに半減しており、それぞれ活動の担い手が不足していることが考えられます。

一方、行ったボランティア活動の内容は、「学校での活動」(16.3%)が3番目、「子どもの見守り・あいさつ活動など」(12.2%)が5番目に高いことから、学校や子どもたちに関わる活動については関心が高いことがわかりました。

以上のことから、今後、学校や子どもたちに関わる活動をきっかけに、ボランティア活動や地域活動の担い手の育成を図ることが必要です。

(9) 「災害時の対応」、「防犯・治安」、「社会的弱者への支援」などを通じた地域のつながりが求められている

地域の“つながり”や“まとまり”については、全体の8割以上の人が必要と回答しており、その理由として、「災害時の共助」(80.1%)、「地域での防犯活動」(55.0%)、「独居老人等の見守り」(50.7%)が上位3項目になっています。一方、地域の課題としては、「防災・防火、災害時の対応」(34.5%)、「地域の防犯・治安」(31.9%)、「高齢者・障害者への支援」(28.3%)が上位3項目となっています。また、この3項目は、地域と行政の協働が必要なことの上位3項目でもあります。

以上のことから、『コミュニティの再生』や『市民と行政との協働』を推進するためには、これら「災害時の対応」、「防犯・治安」、「社会的弱者への支援」に関する取組みを行うことが有効と思われます。

(10) 学校を支援する活動への関心が高い

『学校を支援する活動』に参加したいと回答した人の割合は、「参加したことがあり、今後とも参加したい」(16.1%)と「参加したことはないが、参加したい」(31.9%)と合わせると、全体の約半数(48.0%)におよんでいます。

また、地域活動に参加していない人(できない人)でも4割以上(43.9%)の人が「参加したい」と回答しています。このうち、30歳未満では54.5%、30歳代では73.0%が参加したいと回答しており、若い年代の参加意識は他の年代と比べて高くなっています。

なお、この1年くらいの間に行ったボランティア活動は、「学校での活動」(16.3%)が、「環境美化、リサイクル活動」(46.9%)、「高齢者、障害児・者等への支援」(17.3%)に次いで3番目に高くなっています。

以上のことから、『学校を支援する活動』に対する市民の関心は高いと言えます。特に、地域活動をあまり行っていない若い年代（保護者世代）の参加意識が高いことが判明したことから、今後、地域活動へ参加するきっかけづくりや、地域社会の後継者の発掘・育成を図るために、各校区において、学校を核として“学校・家庭・地域”が連携した取組みを展開することが望まれます。具体的には、市内の全小学校・中学校・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、実施しているE S D（持続可能な開発のための教育）を地域社会全体で支援することなどが考えられます。

（１１）社会教育関係職員のスキルアップが必要

生涯学習が盛んなまちにするために、行政が力を入れるべきこととして、「専門的な職員や指導者の配置（28.5%）が最も高くなっています。

社会教育関係職員には、人と人、人と団体、団体と団体などを結ぶコーディネーターやファシリテーターとしての役割が重要です。それらの役割を果たすには、地区公民館職員をはじめとする社会教育関係職員のスキルアップが求められます。